

急性呼吸器感染症サーベイランス週報:

2025 年第 19 週(2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

Acute Respiratory Infection Surveillance Weekly Report: Epidemiologic Situational Awareness

Week 19, 2025

本報は全国から報告された急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection、以下、ARI という)のサーベイランス報告を精査してまとめています。ARI、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、小児科および内科からなる急性呼吸器感染症定点から、RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、小児科定点から報告されています。患者サーベイランスでは集計日に直近 1 週間のデータを集計し、それより前のデータは再掲しています。病原体サーベイランスでは、集計日に全ての期間のデータを集計しています。週ごとの「傾向(トレンド)」と「水準(レベル)」を踏まえ、感染の流行の状況について、解釈を行っています。地方自治体等で感染症対策に従事する皆様や国民の皆様に、広く疫学情報を提供・還元することを目的としています。巻末に本報に関する注意事項を記載してあります。なお報告数は暫定値であり、変更の可能性があることにご注意下さい。

今週の状況(概要):

2025 年第 19 週(5 月 5 日~5 月 11 日)における ARI の定点当たり報告数は 47.63(報告数 182,709 例)であり、前週(4 月 28 日~5 月 4 日)に比較して減少した。各感染症の定点当たり報告数では、インフルエンザが 0.67、COVID-19 は 0.94、RS ウイルス感染症は 0.30、咽頭結膜熱は 0.40、ヘルパンギーナは 0.03、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 1.98 であった。

年齢群別にみると、報告数が最も多かった年齢群は、インフルエンザでは 10-59 歳、COVID-19 では 10-59 歳、RS ウイルス感染症では 1-4 歳、咽頭結膜熱では 1-4 歳、ヘルパンギーナでは 1-4 歳、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では 5-14 歳であった。ARI 定点当たり報告数が 80 を上回った都道府県は報告されなかった。定点当たり報告数が多かった上位 3 都道府県は、インフルエンザでは沖縄県、秋田県、福島県、COVID-19 では岐阜県、新潟県、山梨県、RS ウイルス感染症では沖縄県、鹿児島県、新潟県、咽頭結膜熱では宮崎県、福井県/鹿児島県、愛媛県、ヘルパンギーナでは沖縄県、長崎県、島根県、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では茨城県、栃木県、愛媛県であった。新規入院患者数を見ると、インフルエンザは 53 例で前週と比較して 20 例減少した。COVID-19 は 449 例で前週と比較して 142 例減少した。

2025 年第 19 週(5 月 5 日~5 月 11 日)に検体が採取され、病原体サーベイランスとして報告された病原体の陽性数は、インフルエンザウイルス A 型が 0 件、インフルエンザウイルス B 型が 0 件、SARS-CoV-2 が 0 件、RS ウイルスが 0 件であった。

目次

今週の状況(概要):.....	1
1. 患者サーベイランス	3
1.1. 全国の定点当たり報告数.....	3
1.2. 全国の年齢群別報告数.....	4
1.3. 都道府県別の定点当たり報告数.....	7
1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数	20
2. 病原体サーベイランスの状況	22
2.1. 全国の病原体別報告数.....	22
2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス.....	26
参考: 検体採取週ごとの全自動遺伝子解析装置等による検査結果	28
注意事項	29
地域の定義	29
参考サイト	30
参考: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数.....	31

1. 患者サーベイランス

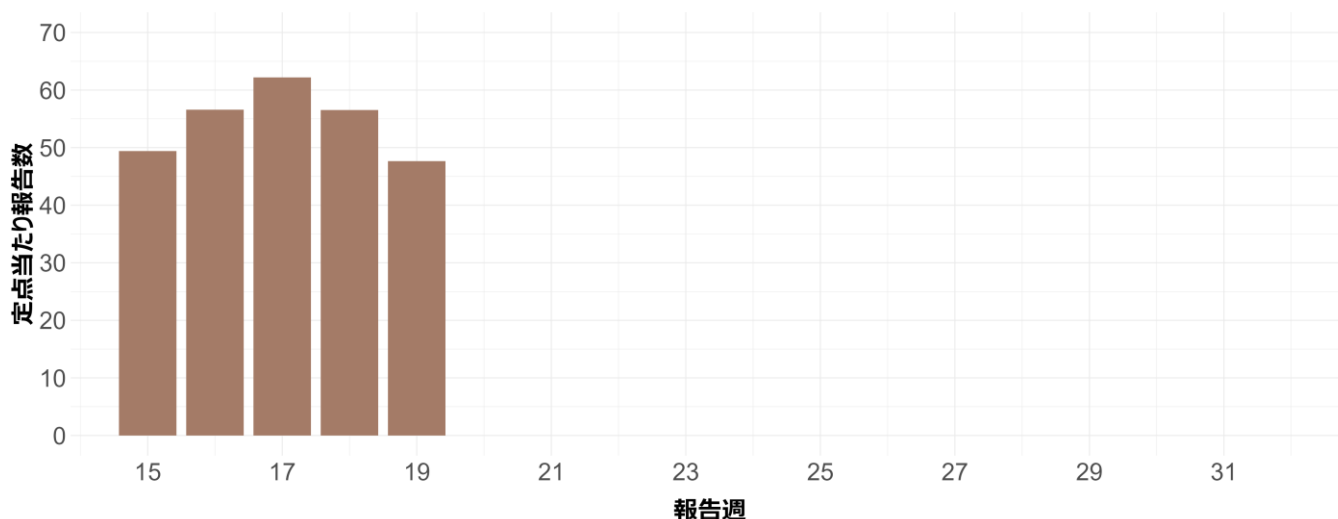
1.1. 全国の定点当たり報告数

2025 年第 19 週(5 月 5 日～5 月 11 日)における ARI は、3,836 カ所の急性呼吸器感染症定点から報告され、定点当たり報告数は 47.63(報告数 182,709 例)であった(図 1)。前週比は 0.84 であった。

急性呼吸器感染症定点から報告されたインフルエンザは 0.67(報告数 2,580 例)、COVID-19 は 0.94(報告数 3,604 例)であった(図 1A)。なお、報告定点数は 3,854 カ所であった。

小児科定点から報告された RS ウイルス感染症は 0.30(報告数 710 例)、咽頭結膜熱は 0.40(報告数 934 例)、ヘルパンギーナは 0.03(報告数 62 例)、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 1.98(報告数 4,667 例)であった(図 1B)。なお、報告定点数は 2,358 カ所であった。

図 1: 週ごとの ARI の定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日～2025 年 5 月 11 日)

図 1A: 週ごとのインフルエンザおよび COVID-19 の定点当たり報告数

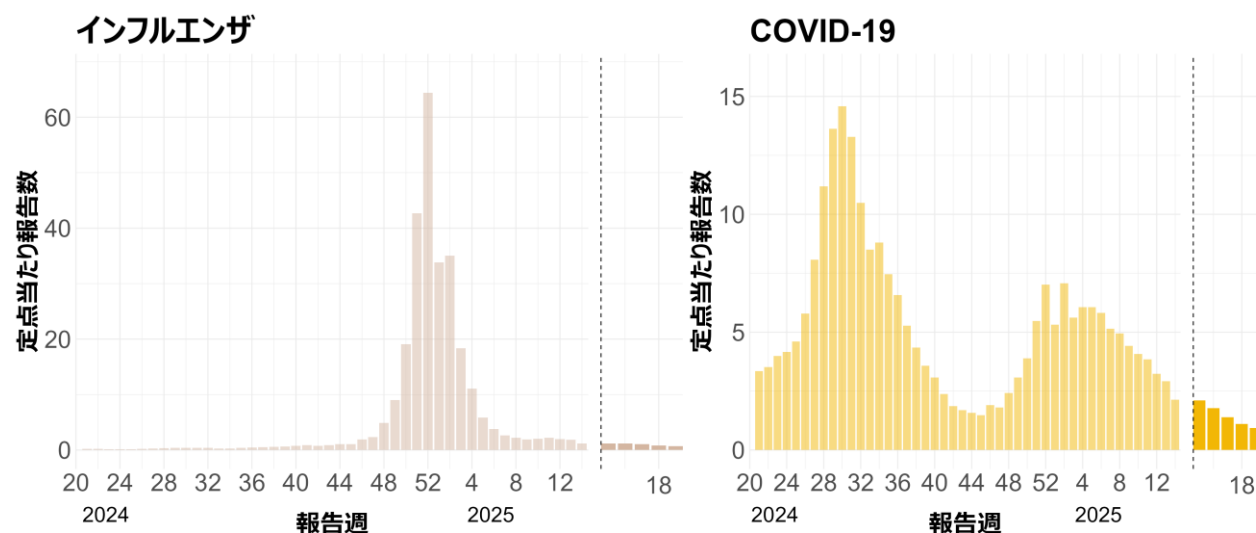
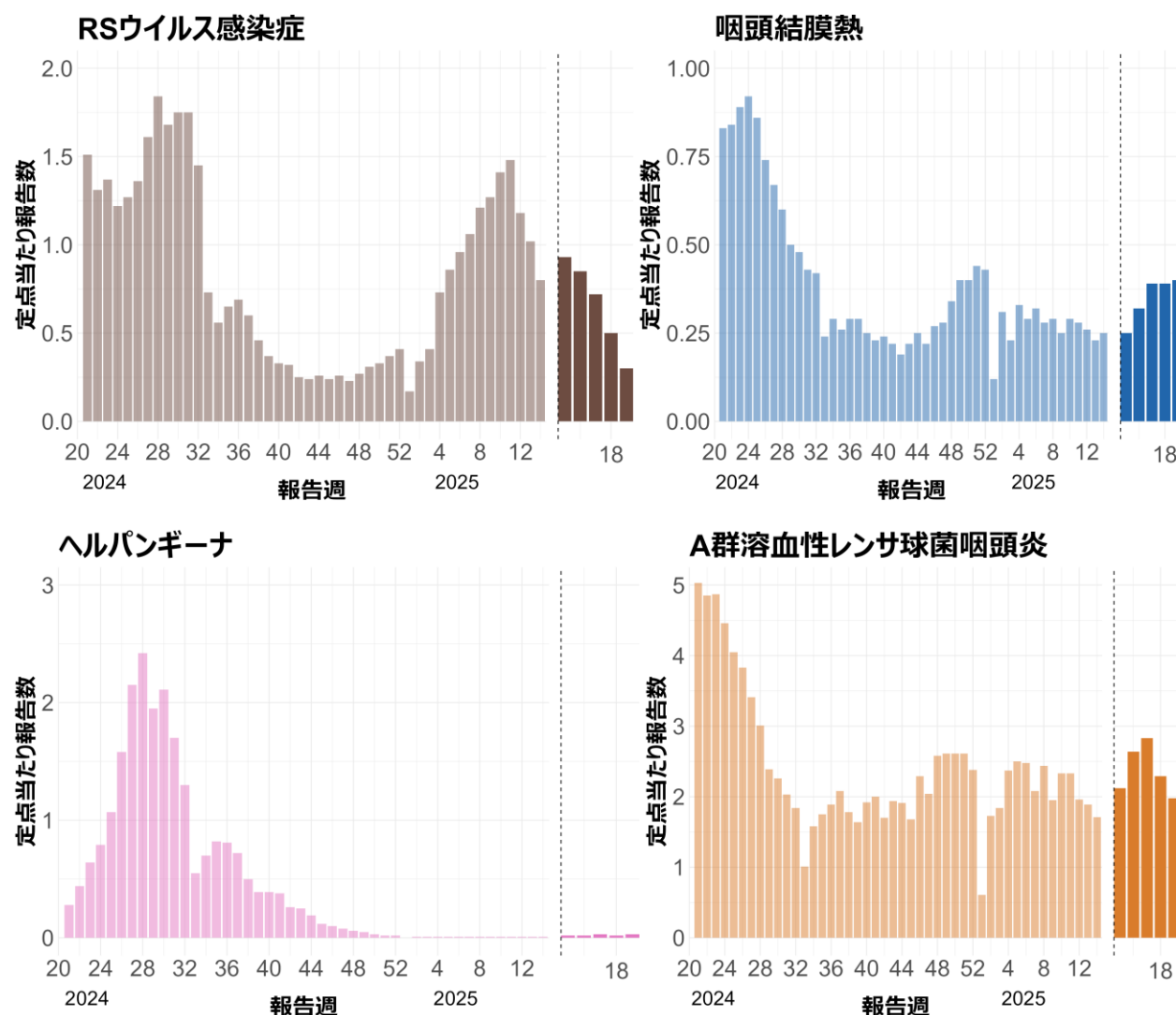


図 1B: 週ごとの感染症別の定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2024 年 5 月 13 日~2025 年 5 月 11 日)

注)報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

注)定点数の変更をうけて、2025 年第 14 週と第 15 週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

注)2025 年 4 月 7 日(第 15 週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約 5,000 医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約 3,000 医療機関)に変更、小児科定点は約 3,000 医療機関から約 2,000 医療機関に変更された。

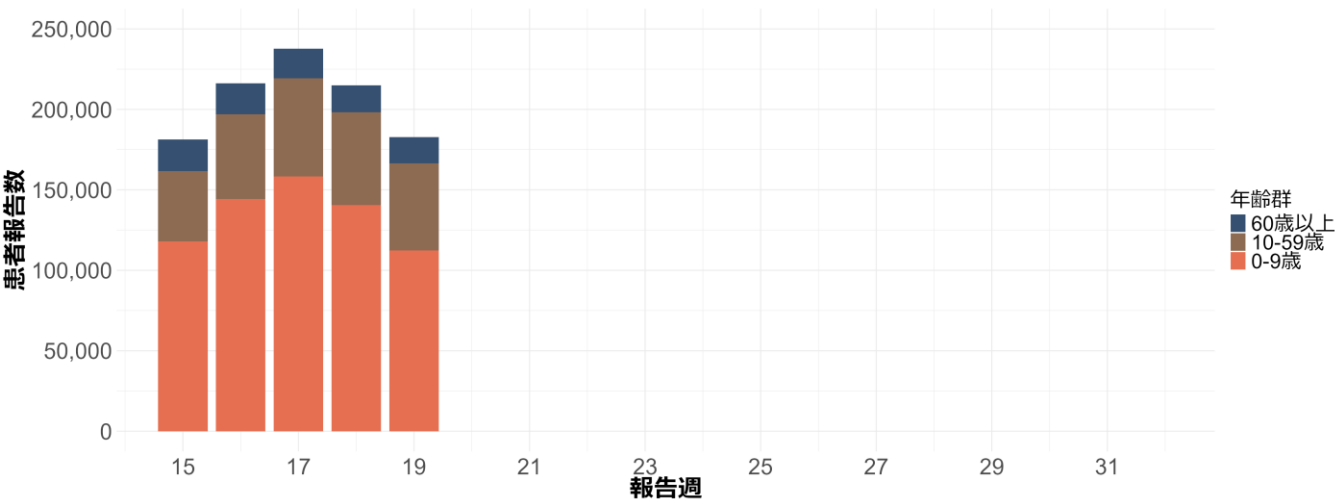
1.2. 全国の年齢群別報告数

2025 年第 19 週に定点から報告された ARI の報告数を年齢群別にみると、0-9 歳では 112,443 例、10-59 歳では 54,121 例、60 歳以上は 16,145 例であった(図 2)。

各感染症の年齢群別報告数の推移をみると、インフルエンザは 0-9 歳、10-59 歳では減少、60 歳以上

では増加であった。COVID-19 は全ての年齢群で減少した(表 1A)。また RS ウイルス感染症は全ての年齢群で減少であった。咽頭結膜熱は 0 歳では減少、1-4 歳、5-14 歳では横ばい、15 歳以上では増加であった。ヘルパンギーナは全ての年齢群で増加であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 0 歳、1-4 歳、5-14 歳では減少、15 歳以上では増加であった(表 1B)。週ごとの年齢群別報告数を図 2A および図 2B に示す。なお第 19 週はゴールデンウィークを含んでおり、前週比をみる際には注意が必要である(注意事項参照)。

図 2: 週ごとの ARI の年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2025 年 5 月 11 日)

図 2A: 週ごとのインフルエンザおよび COVID-19 の年齢群別報告数

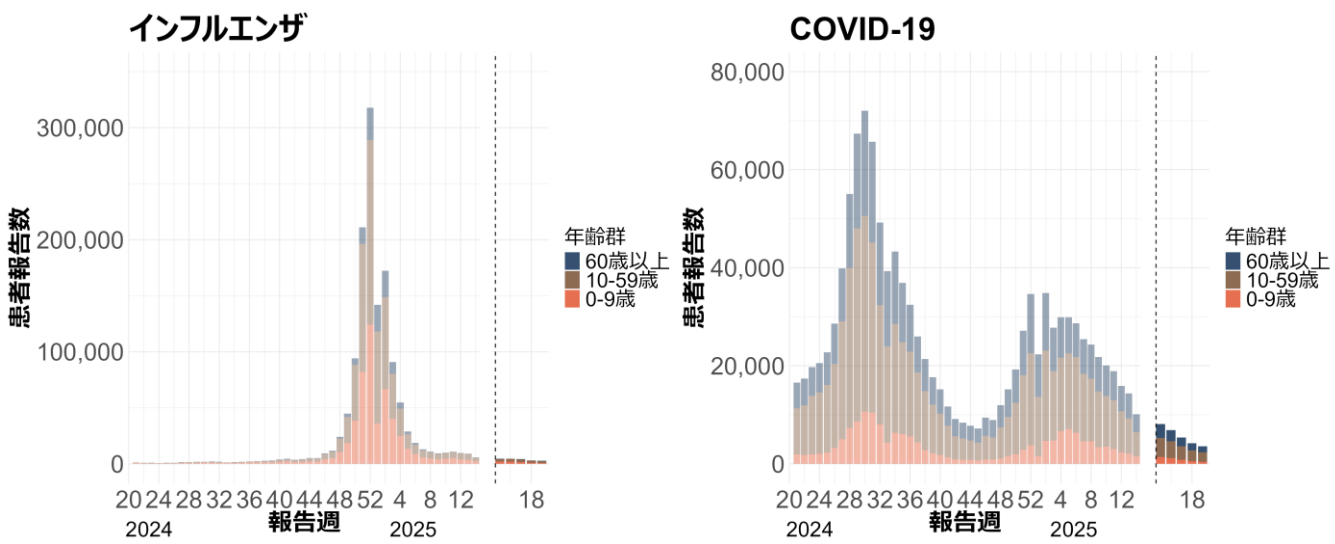
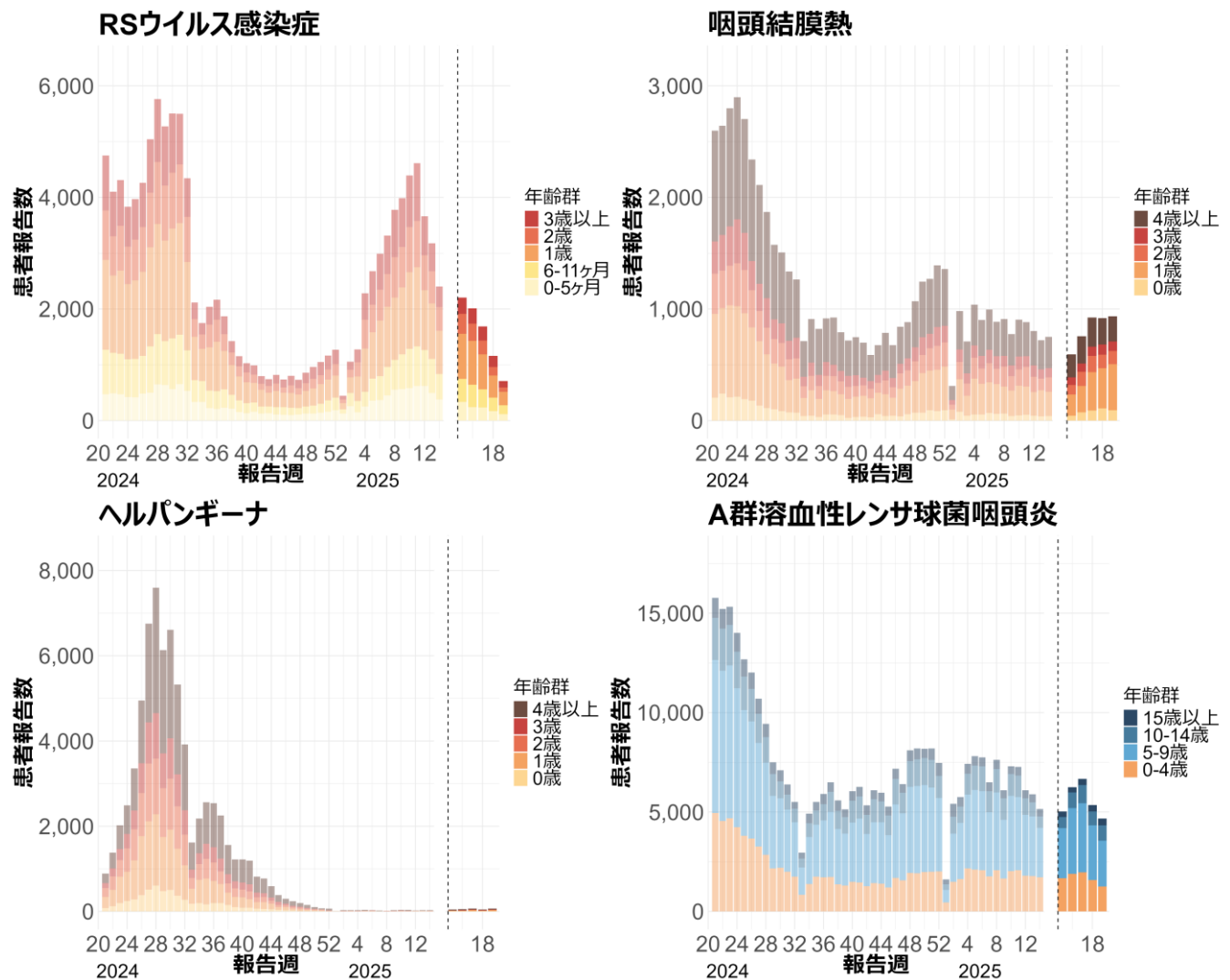


図 2B: 週ごとの感染症別の年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2025年5月14日時点, データ範囲: 2024年5月13日~2025年5月11日)

注) 報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

注) 定点数の変更をうけて、2025年第14週と第15週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

注) 2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約5,000医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約3,000医療機関)に変更、小児科定点は約3,000医療機関から約2,000医療機関に変更された。

表 1A: 当該週におけるインフルエンザおよび COVID-19 の年齢群別報告数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9 歳	717 (0.78)	411 (0.75)
10-59 歳	1,719 (0.86)	1,961 (0.90)
60 歳以上	144 (1.12)	1,232 (0.83)
計	2,580 (0.85)	3,604 (0.85)

表 1B: 当該週における感染症別の年齢群別報告数

年齢群	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
0 歳	276 (0.67)	94 (0.85)	9 (1.50)	22 (0.55)
1-4 歳	390 (0.56)	665 (1.05)	36 (1.33)	1,227 (0.80)
5-14 歳	38 (0.79)	148 (0.95)	15 (1.50)	3,074 (0.89)
15 歳以上	6 (0.67)	27 (1.69)	2 (2.00)	344 (1.06)
計	710 (0.61)	934 (1.02)	62 (1.41)	4,667 (0.87)

出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週の IDWR で還元したデータを用いた。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「—」と表記する。

1.3. 都道府県別の定点当たり報告数

2025 年第 19 週の ARI の定点当たり報告数の上位 3 都道府県は、栃木県が 72.81 で最も多く、次いで岩手県が 69.40、さらに宮城県が 65.98 であった(表 2)。ARI 定点当たり報告数が 80 を上回った都道府県は報告されなかった(図 3A)。定点当たり報告数は 26.58~72.81 であった。

定点当たり報告数が多かった上位 3 都道府県は、インフルエンザでは沖縄県、秋田県、福島県であった。COVID-19 では岐阜県、新潟県、山梨県であった。RS ウイルス感染症では沖縄県、鹿児島県、新潟県で

あった。咽頭結膜熱では宮崎県、福井県/鹿児島県、愛媛県であった。ヘルパンギーナでは沖縄県、長崎県、島根県であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では茨城県、栃木県、愛媛県であった。インフルエンザおよび COVID-19 の定点当たり報告数が 10 を上回った都道府県は報告されなかった（図 3B、表 3）。

表 2: 当該週における都道府県別 ARI の定点当たり報告数

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
北海道	7,225	43.26	0.75
青森県	2,429	48.58	0.86
岩手県	2,915	69.40	0.78
宮城県	3,563	65.98	0.85
秋田県	1,151	46.04	0.83
山形県	2,401	63.18	0.92
福島県	2,879	59.98	0.87
茨城県	3,905	57.43	0.93
栃木県	3,422	72.81	0.81
群馬県	2,893	64.29	0.79
埼玉県	11,228	65.28	0.86
千葉県	9,511	53.13	0.88
東京都	17,595	42.19	0.85
神奈川県	11,949	50.42	0.85
新潟県	2,777	53.40	0.81
富山県	2,963	61.73	0.88
石川県	2,194	45.71	0.89
福井県	1,362	34.92	0.82
山梨県	1,298	37.09	0.93
長野県	3,658	45.16	0.79
岐阜県	1,849	41.09	0.85
静岡県	5,523	39.73	0.88
愛知県	9,441	57.92	0.83
三重県	2,388	33.63	0.89
滋賀県	2,650	45.69	0.85
京都府	2,945	46.75	0.86

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
大阪府	9,556	32.73	0.83
兵庫県	7,096	43.27	0.85
奈良県	1,410	34.39	0.79
和歌山県	1,702	37.82	0.86
鳥取県	1,397	48.17	0.87
島根県	1,025	51.25	0.81
岡山県	2,574	51.48	0.77
広島県	4,082	43.43	0.90
山口県	3,299	52.37	0.81
徳島県	1,260	37.06	0.92
香川県	1,823	45.58	0.82
愛媛県	2,379	62.61	0.85
高知県	1,010	26.58	0.89
福岡県	5,212	42.72	0.98
佐賀県	1,302	56.61	0.94
長崎県	2,725	53.43	0.82
熊本県	3,308	45.32	0.87
大分県	3,202	55.21	0.99
宮崎県	1,198	42.79	0.82
鹿児島県	2,820	49.47	0.84
沖縄県	2,215	49.22	0.84

出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

注)前週の報告数は、当該週の IDWR で還元したデータを用いた。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「―」と表記する。

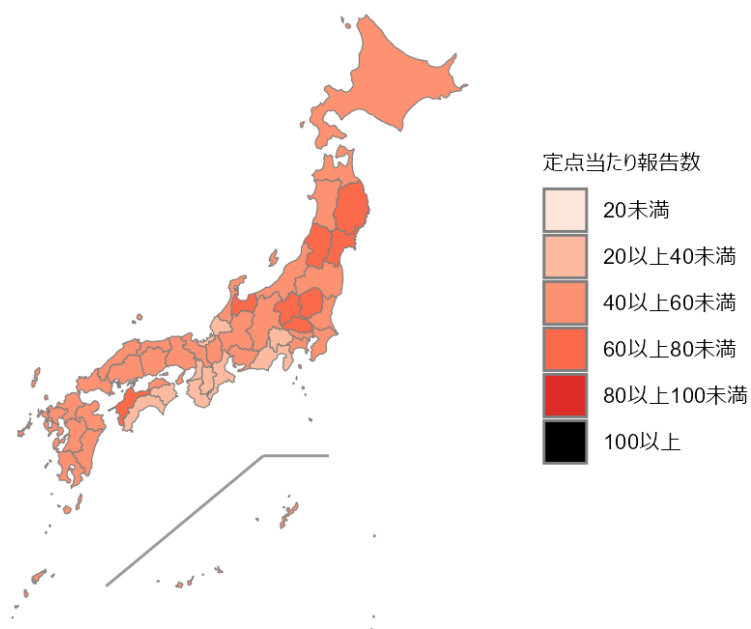
表 3: 当該週における感染症別定点当たり報告数の上位 3 都道府県

順位		インフルエンザ	COVID-19	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
1	都道府県	沖縄県	岐阜県	沖縄県	宮崎県	沖縄県	茨城県
	定点当たり報告数	3.60	2.29	1.40	1.33	0.32	5.08
2	都道府県	秋田県	新潟県	鹿児島県	福井県	長崎県	栃木県
	定点当たり報告数	2.28	1.87	0.94	1.00	0.29	3.59
3	都道府県	福島県	山梨県	新潟県	鹿児島県	島根県	愛媛県
	定点当たり報告数	1.98	1.57	0.90	1.00	0.09	3.52

出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

注) 定点当たり報告数が同値であった場合には、都道府県番号の昇順により記載する。

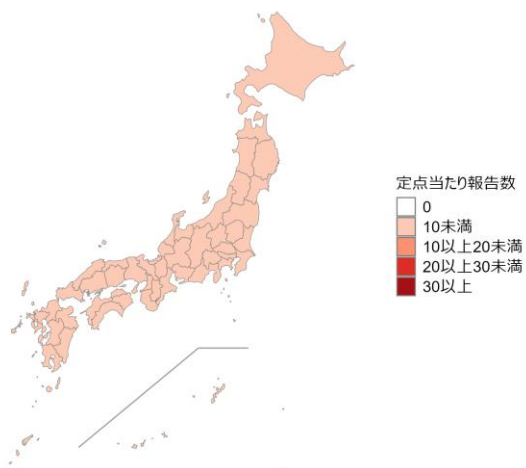
図 3A: 当該週における都道府県別 ARI の定点当たり報告数



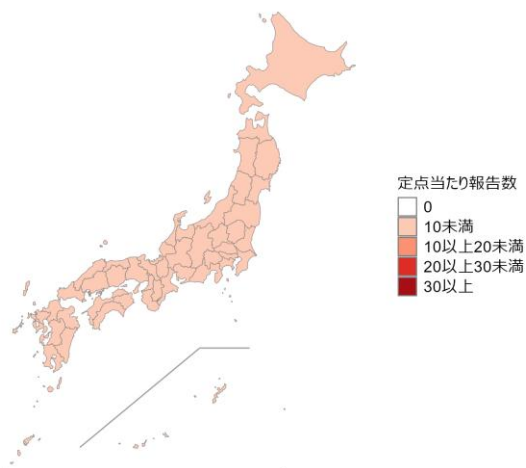
出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

図 3B: 当該週における各感染症の都道府県別定点当たり報告数

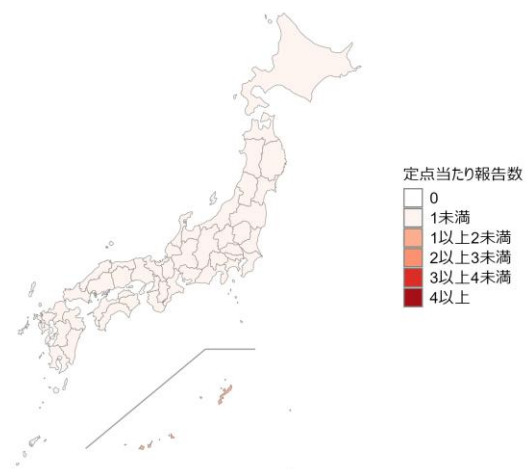
インフルエンザ



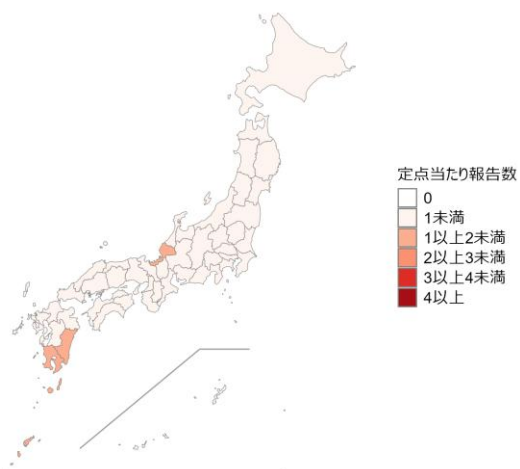
COVID-19



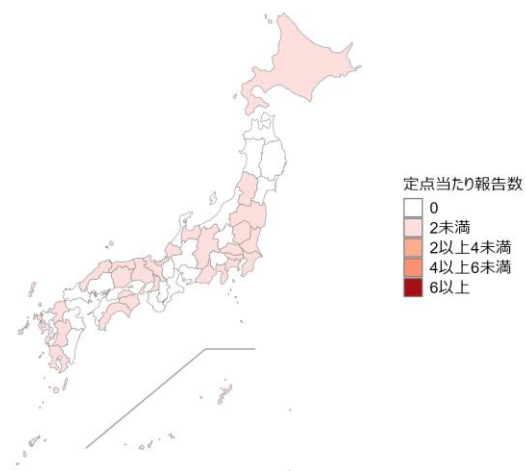
RSウイルス感染症



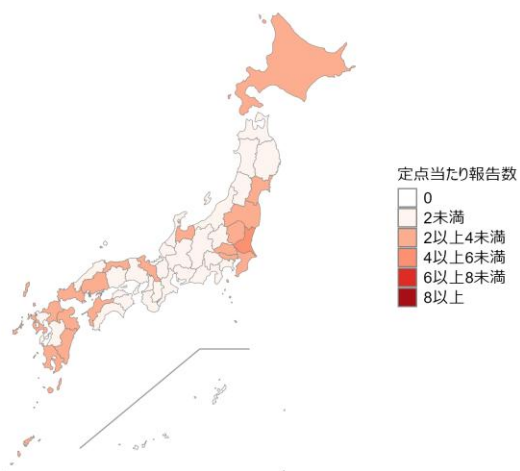
咽頭結膜熱



ヘルパンギーナ

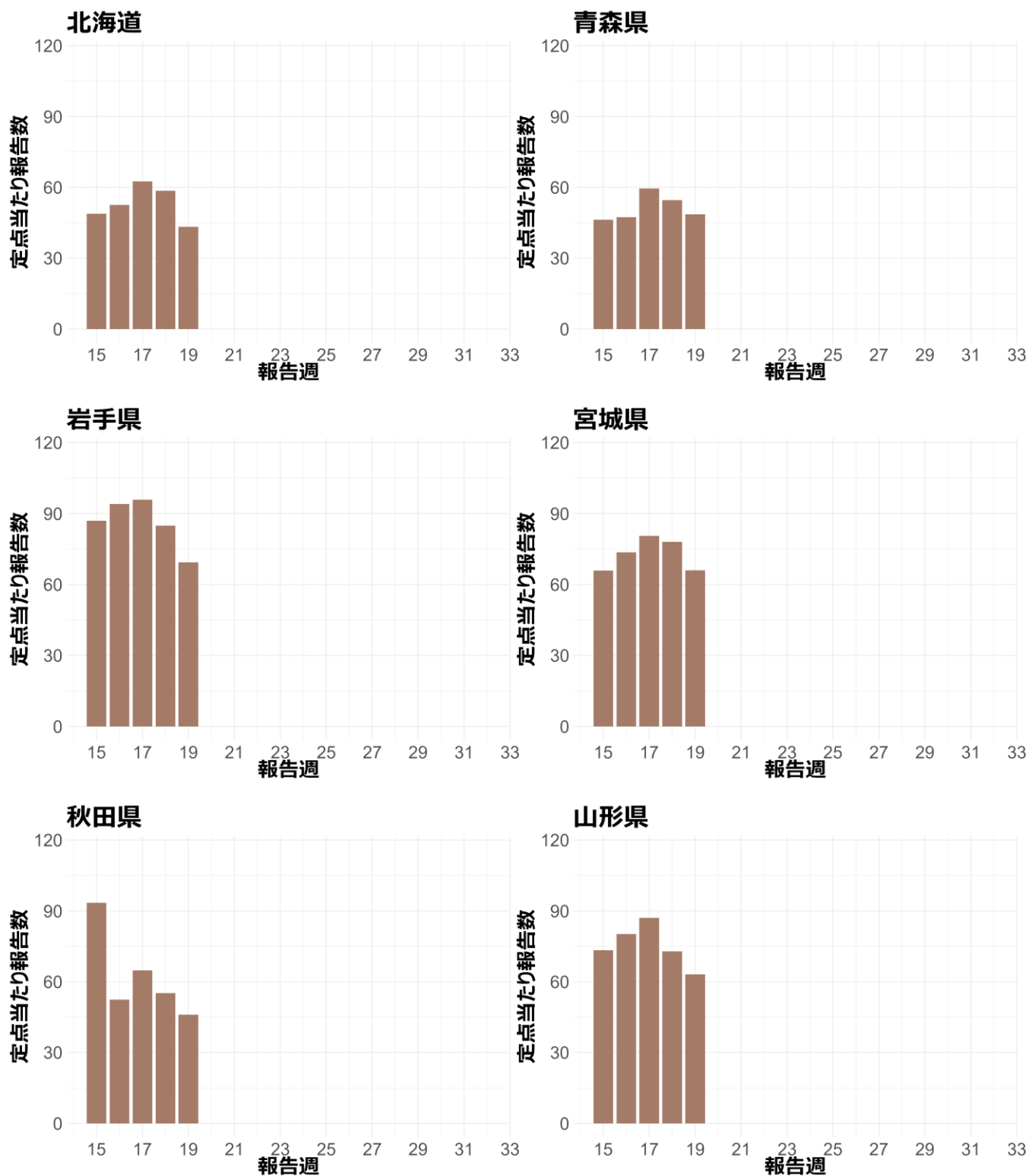


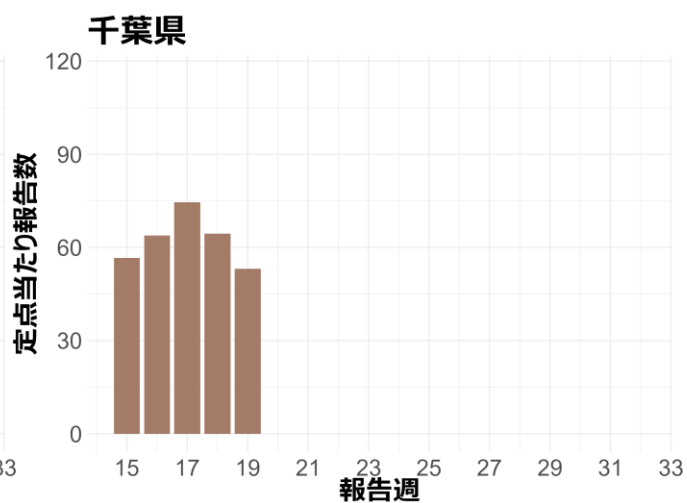
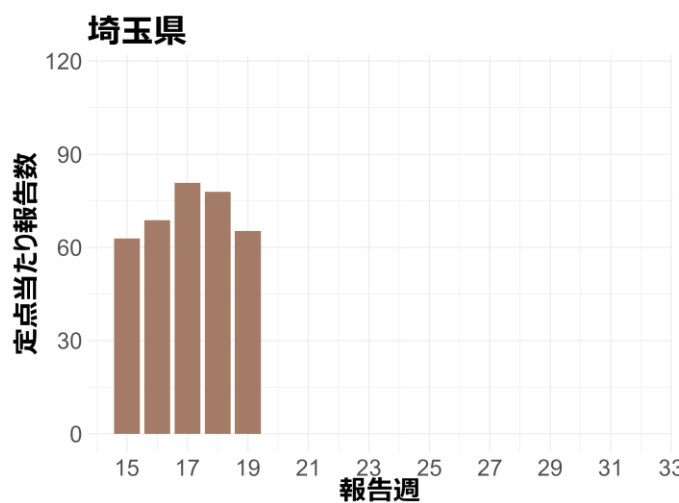
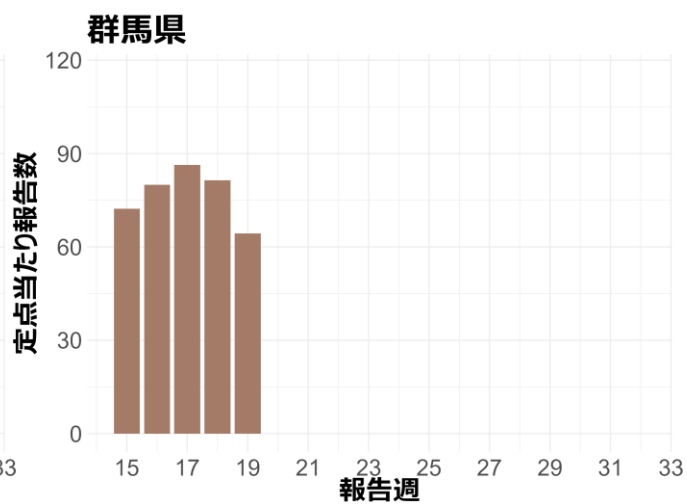
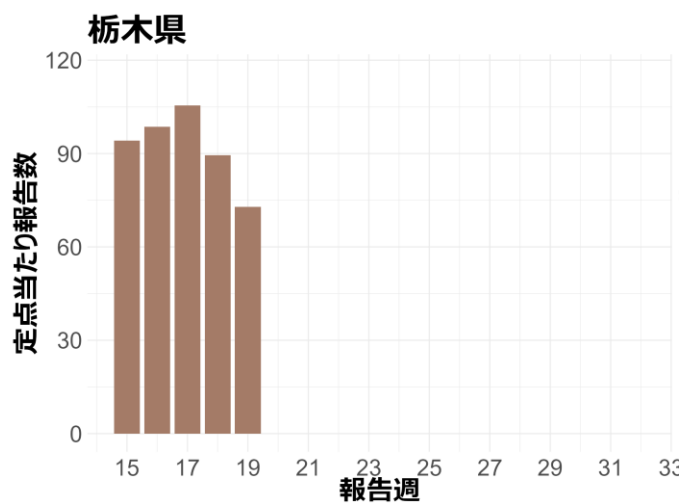
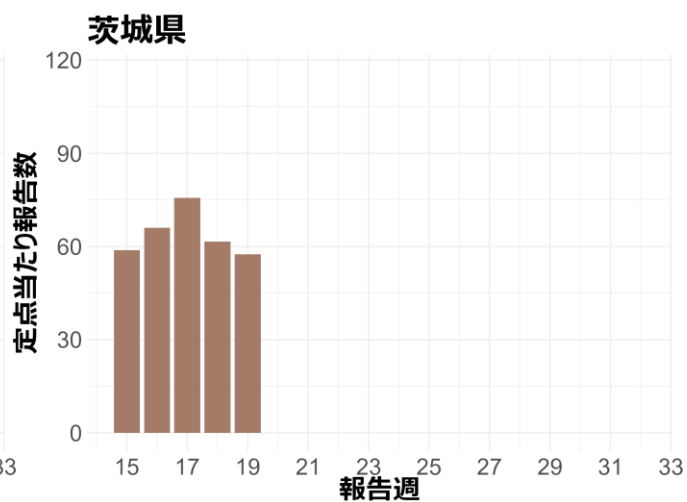
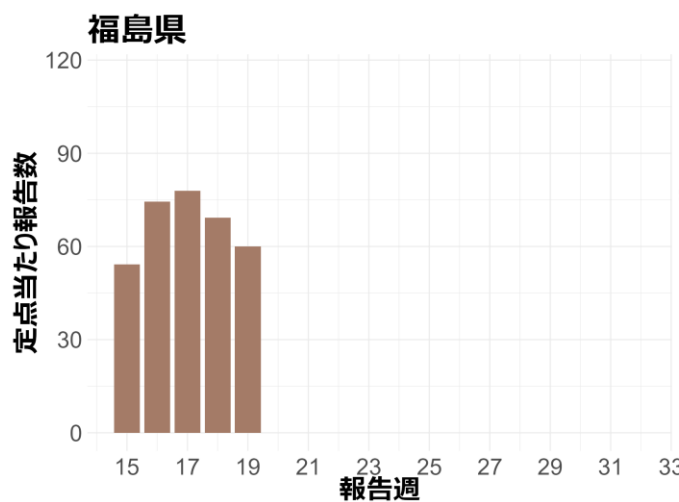
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

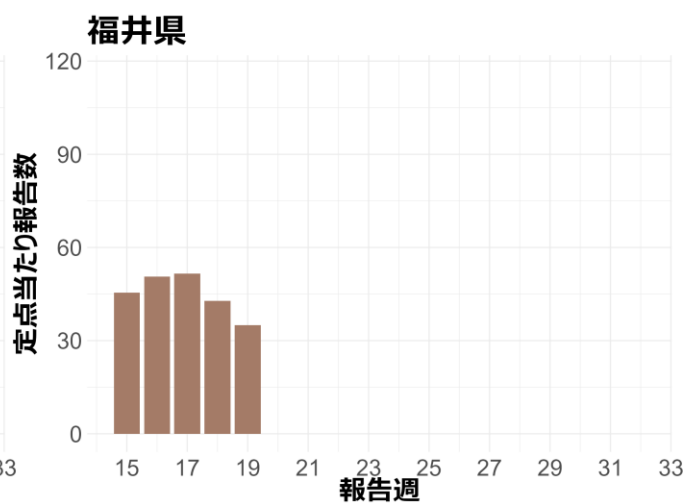
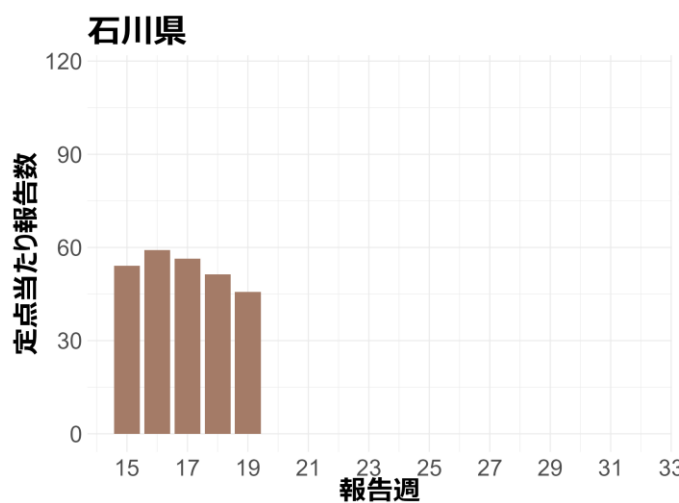
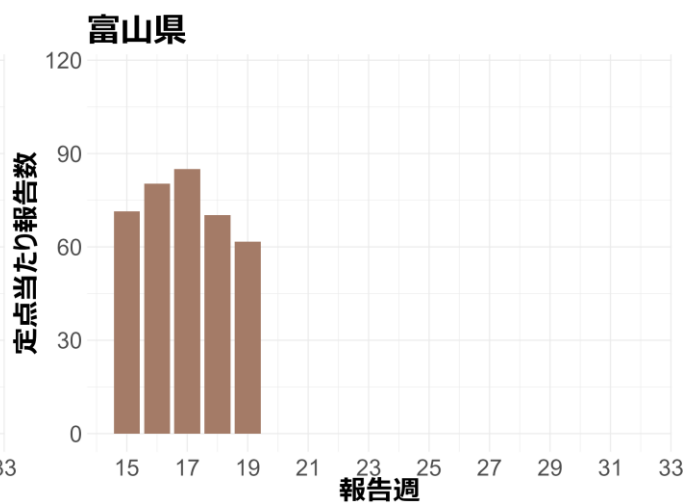
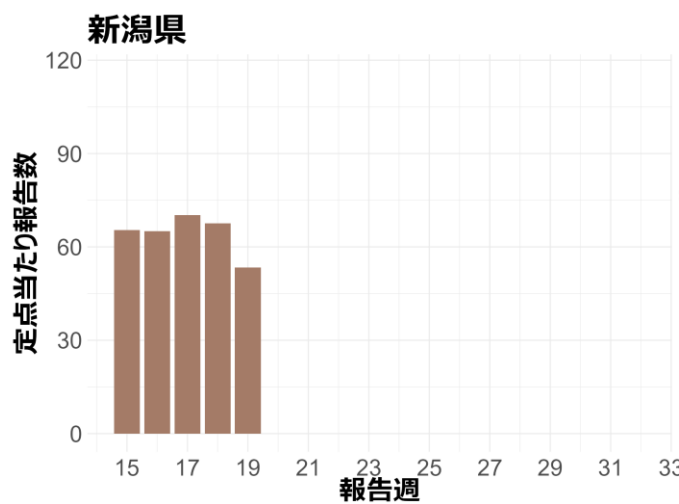
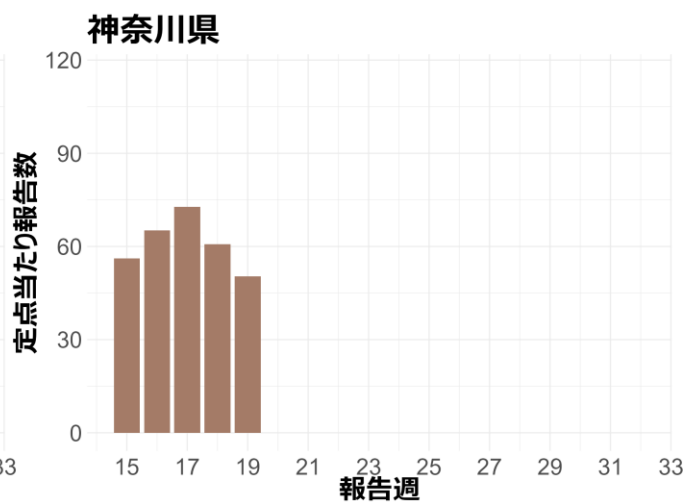
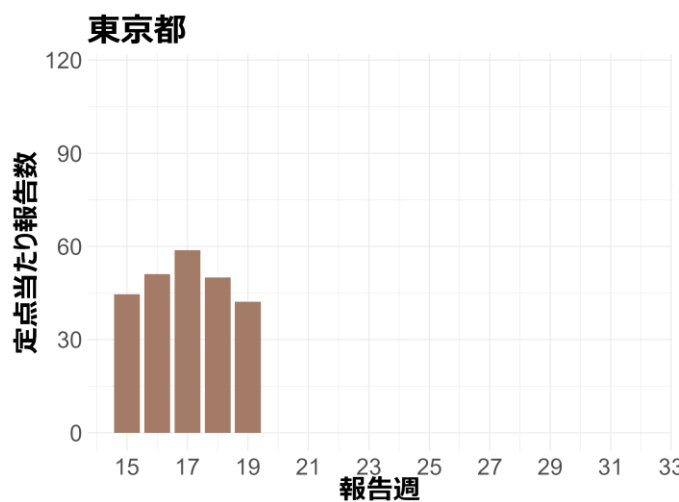


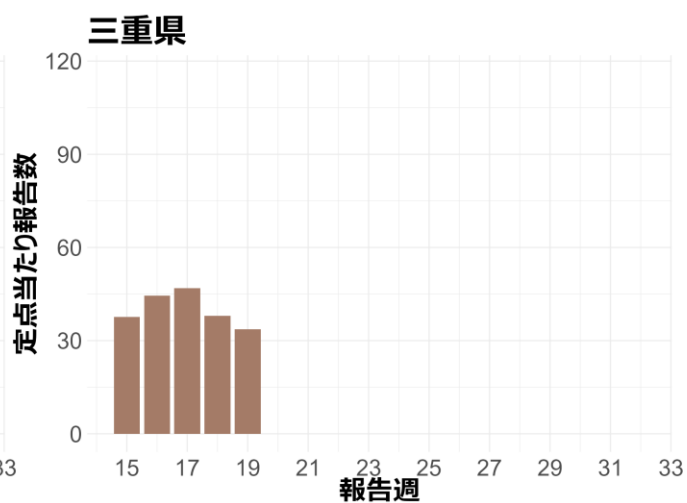
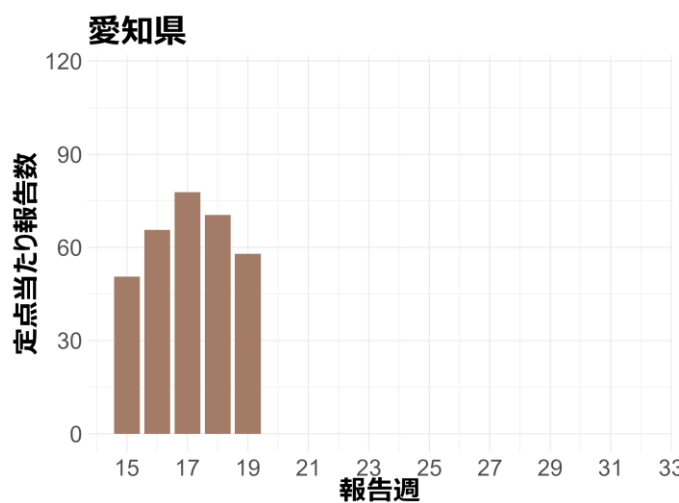
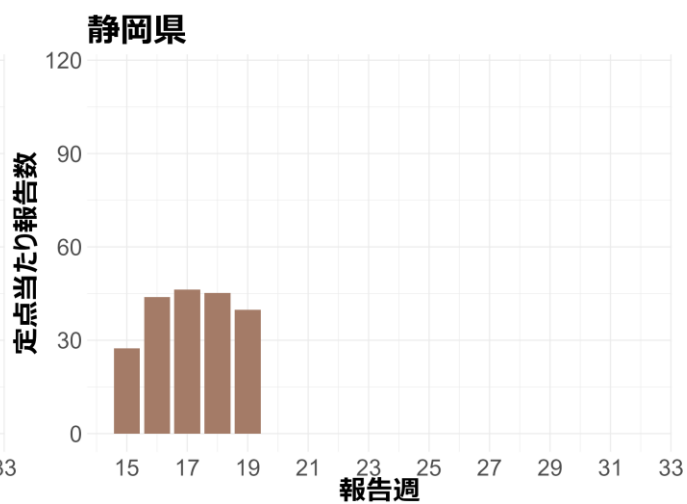
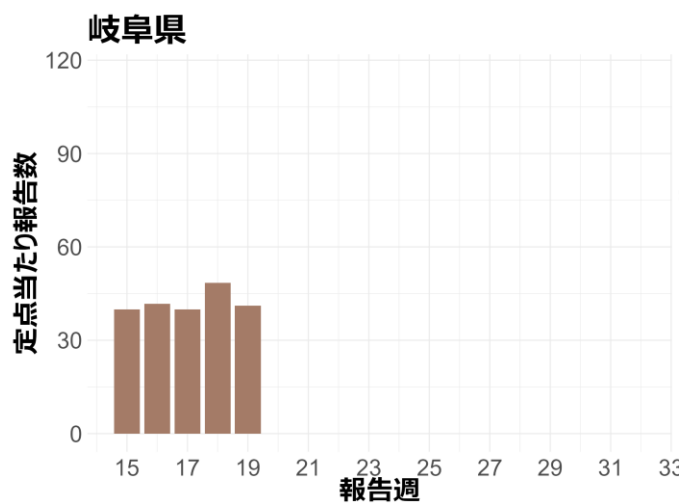
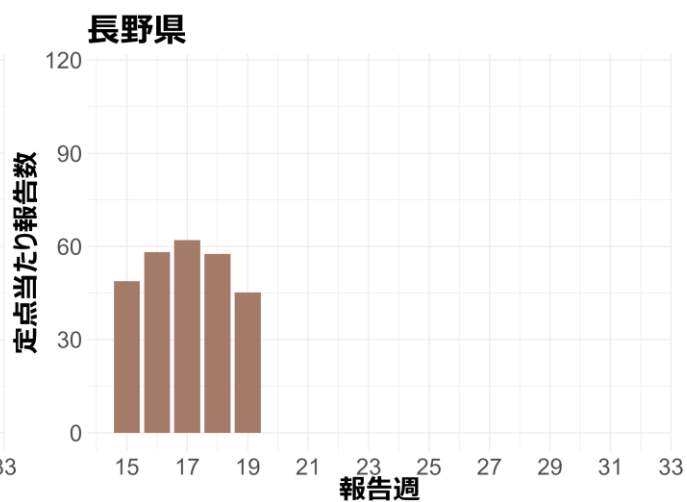
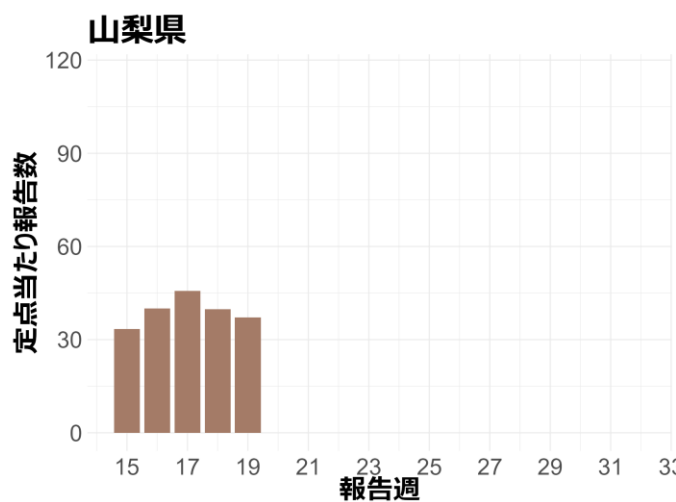
出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

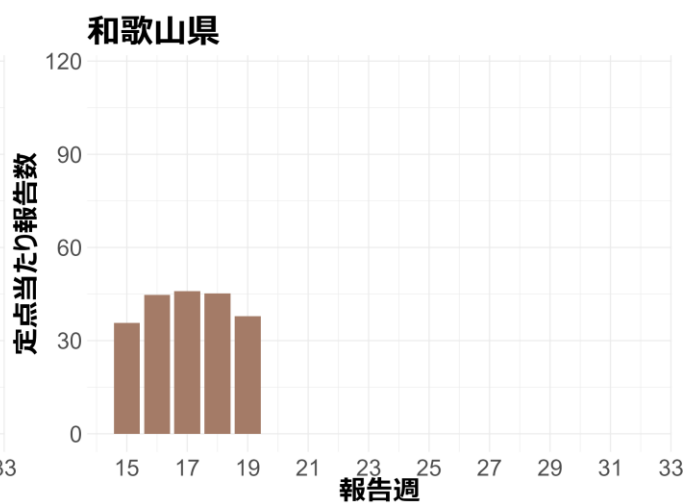
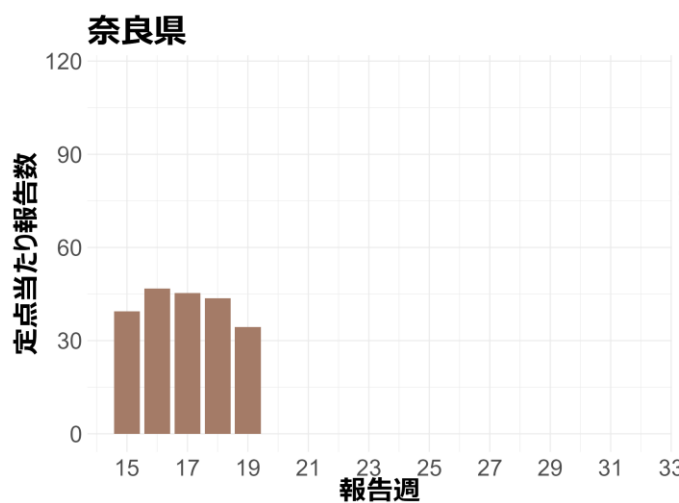
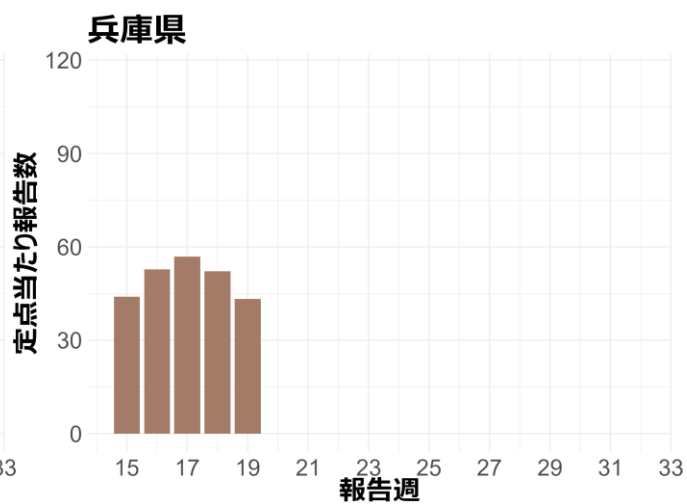
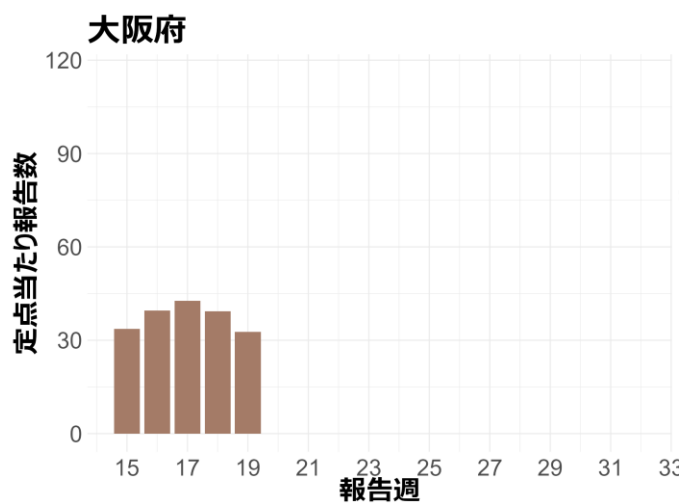
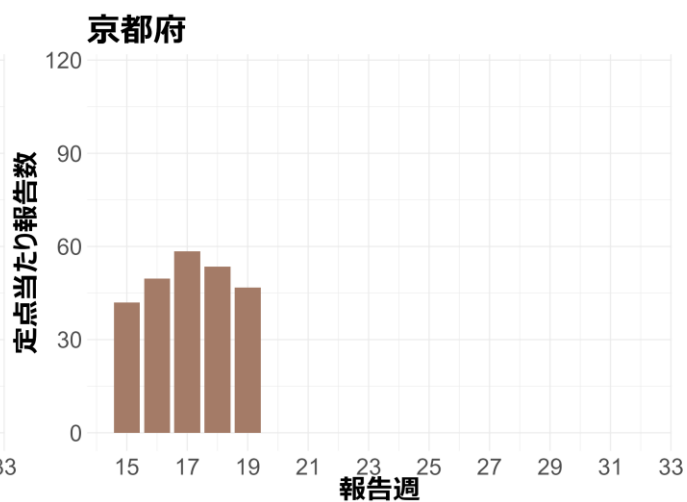
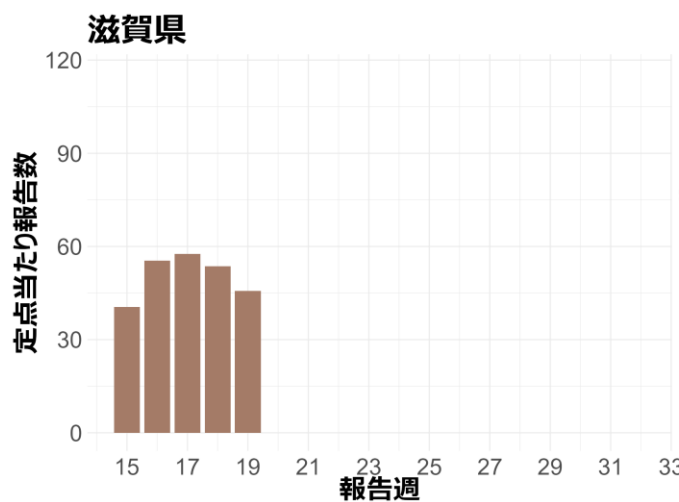
図 4: 週ごとの都道府県別 ARI の定点当たり報告数

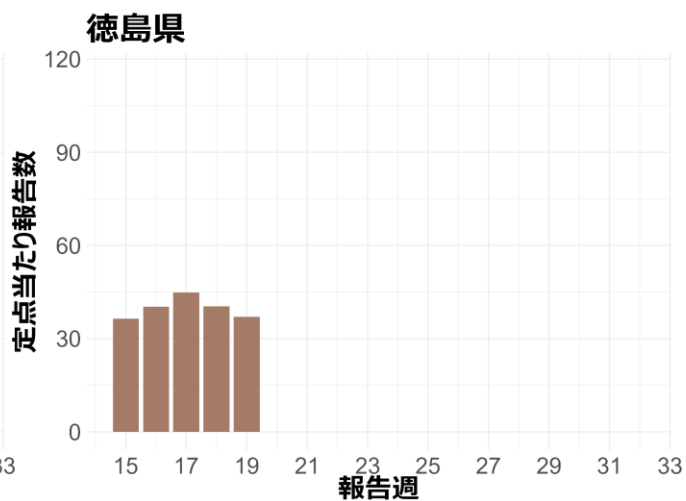
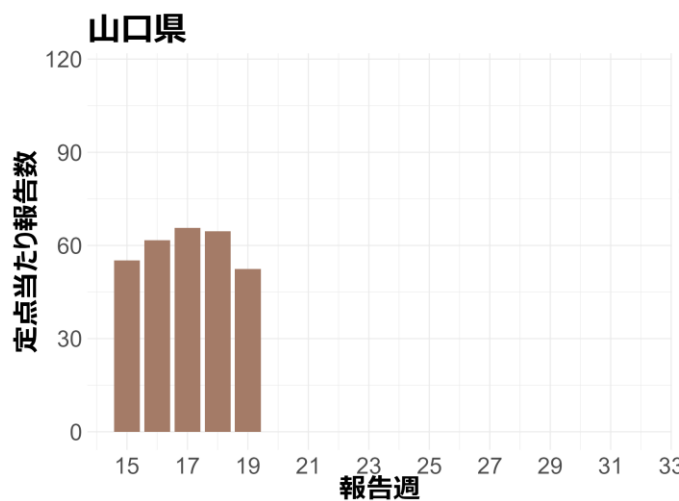
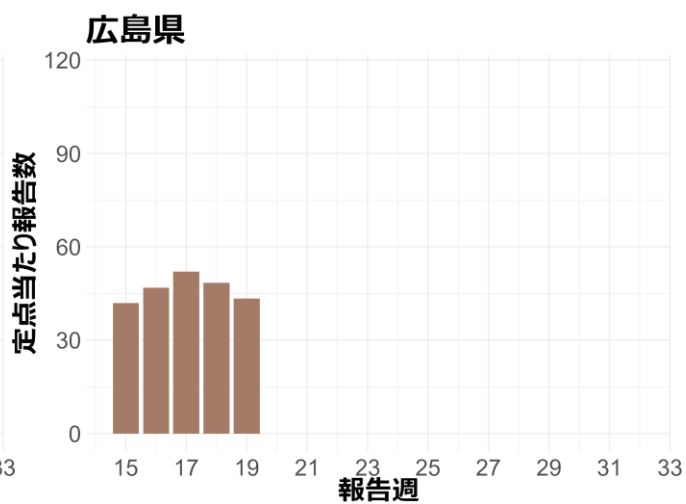
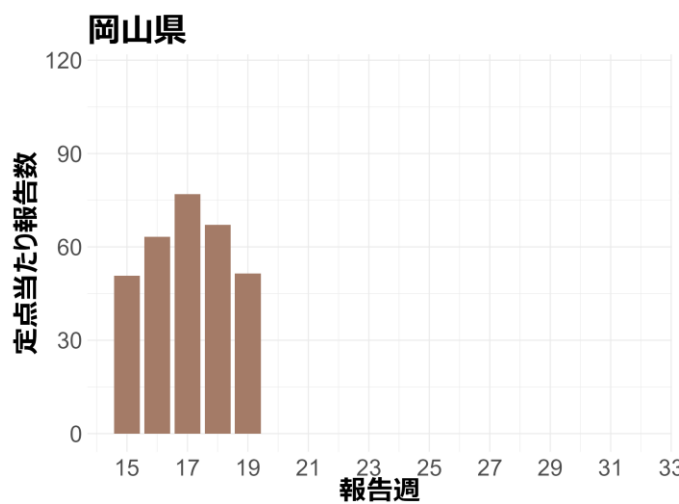
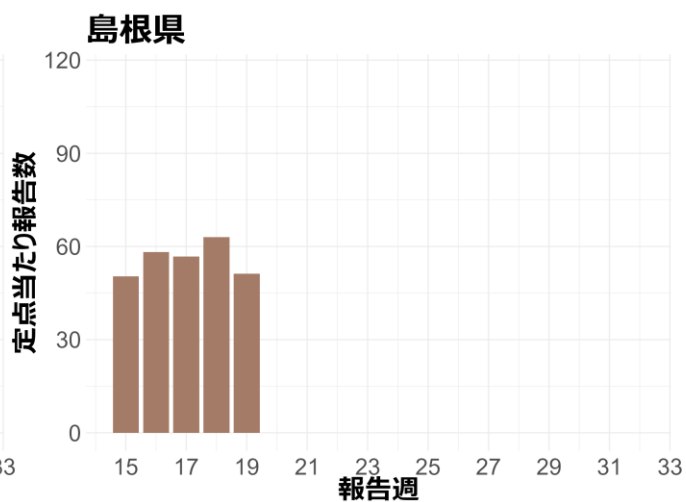
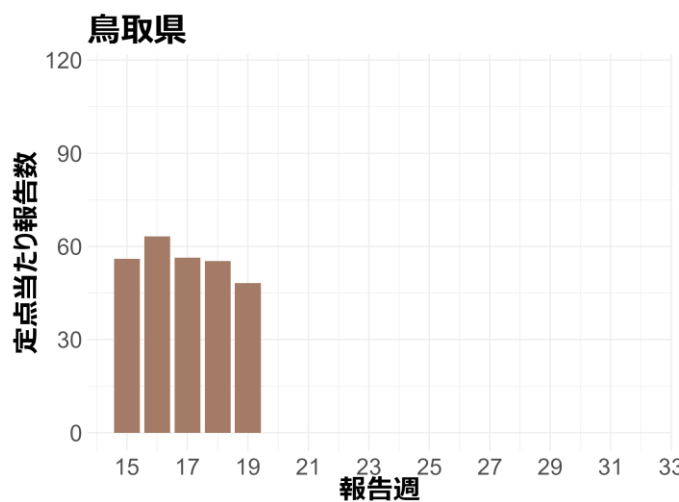


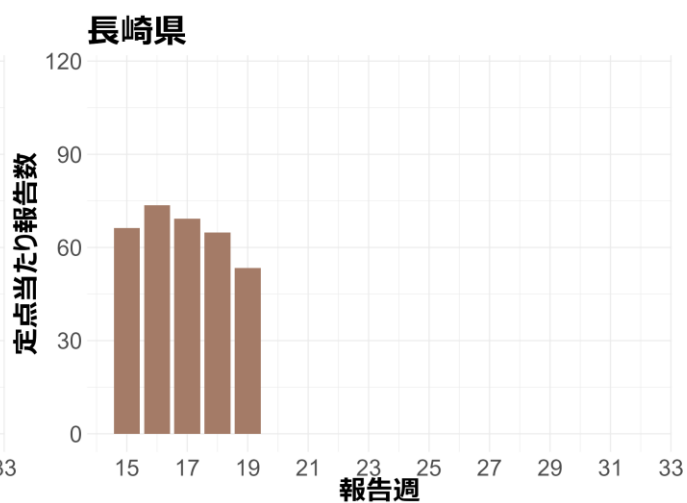
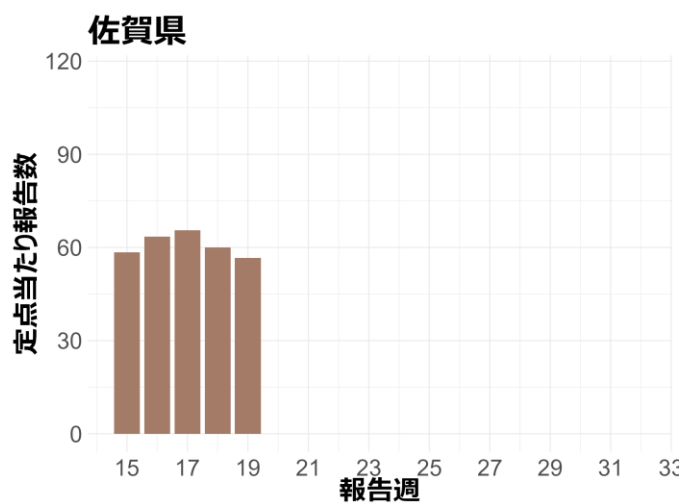
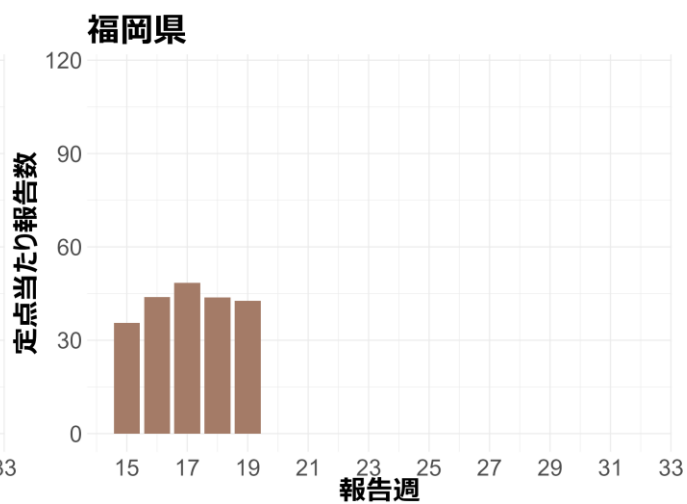
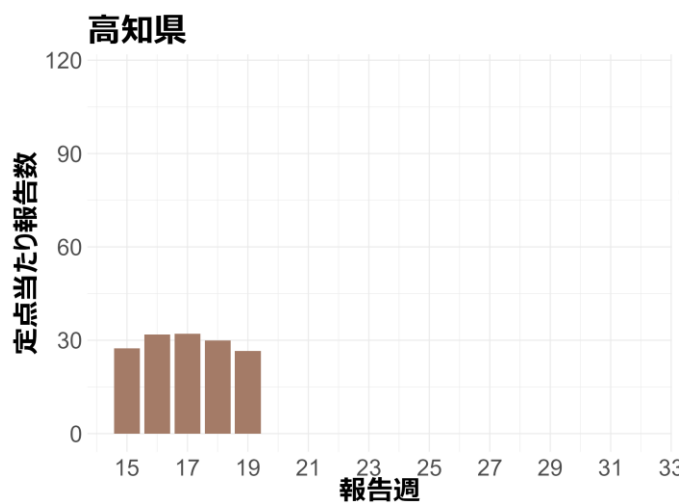
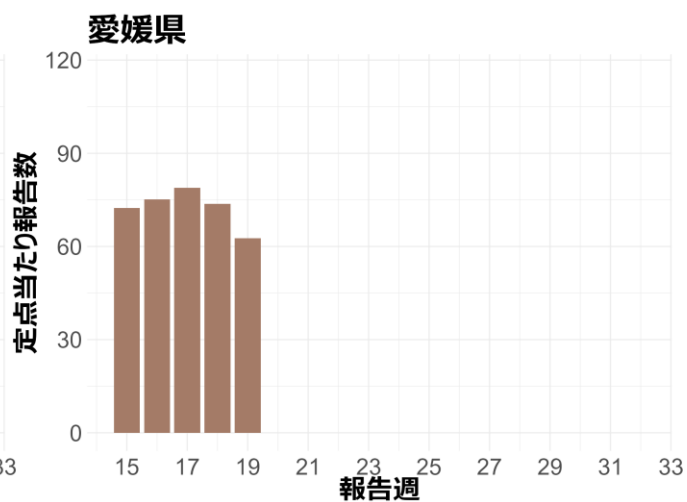
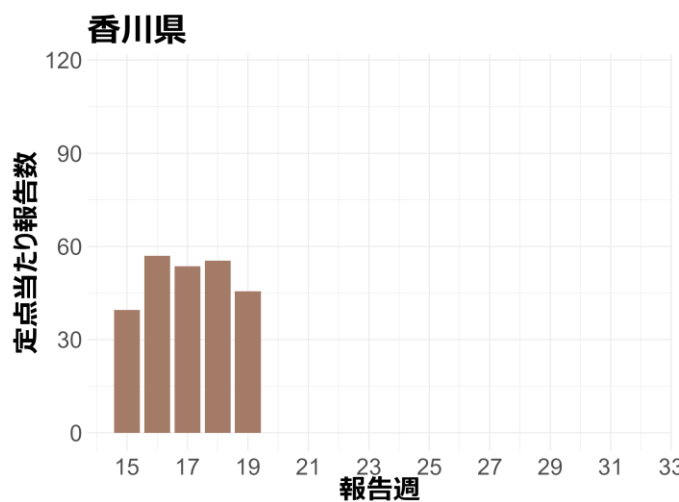


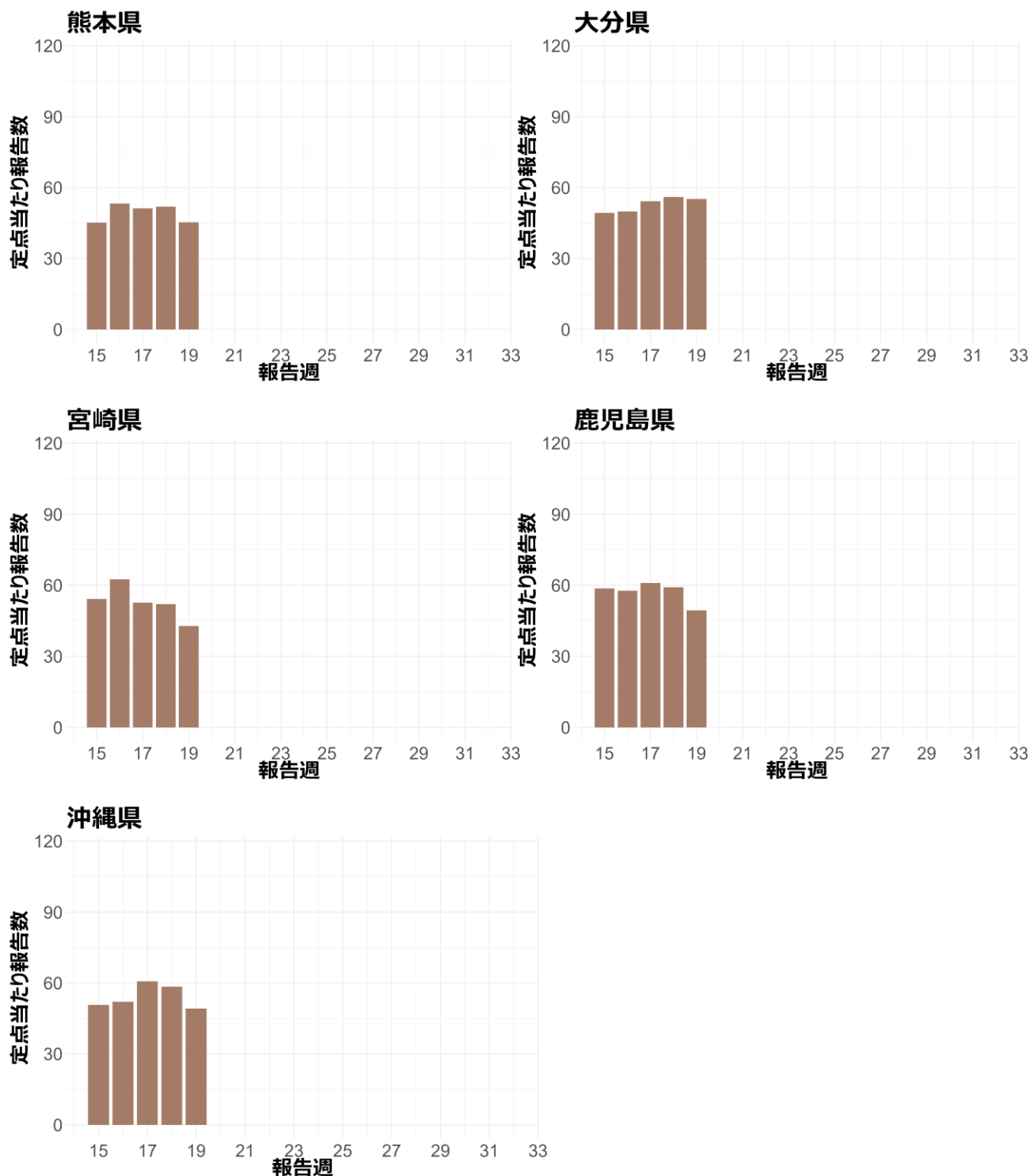












出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2025 年 5 月 11 日)

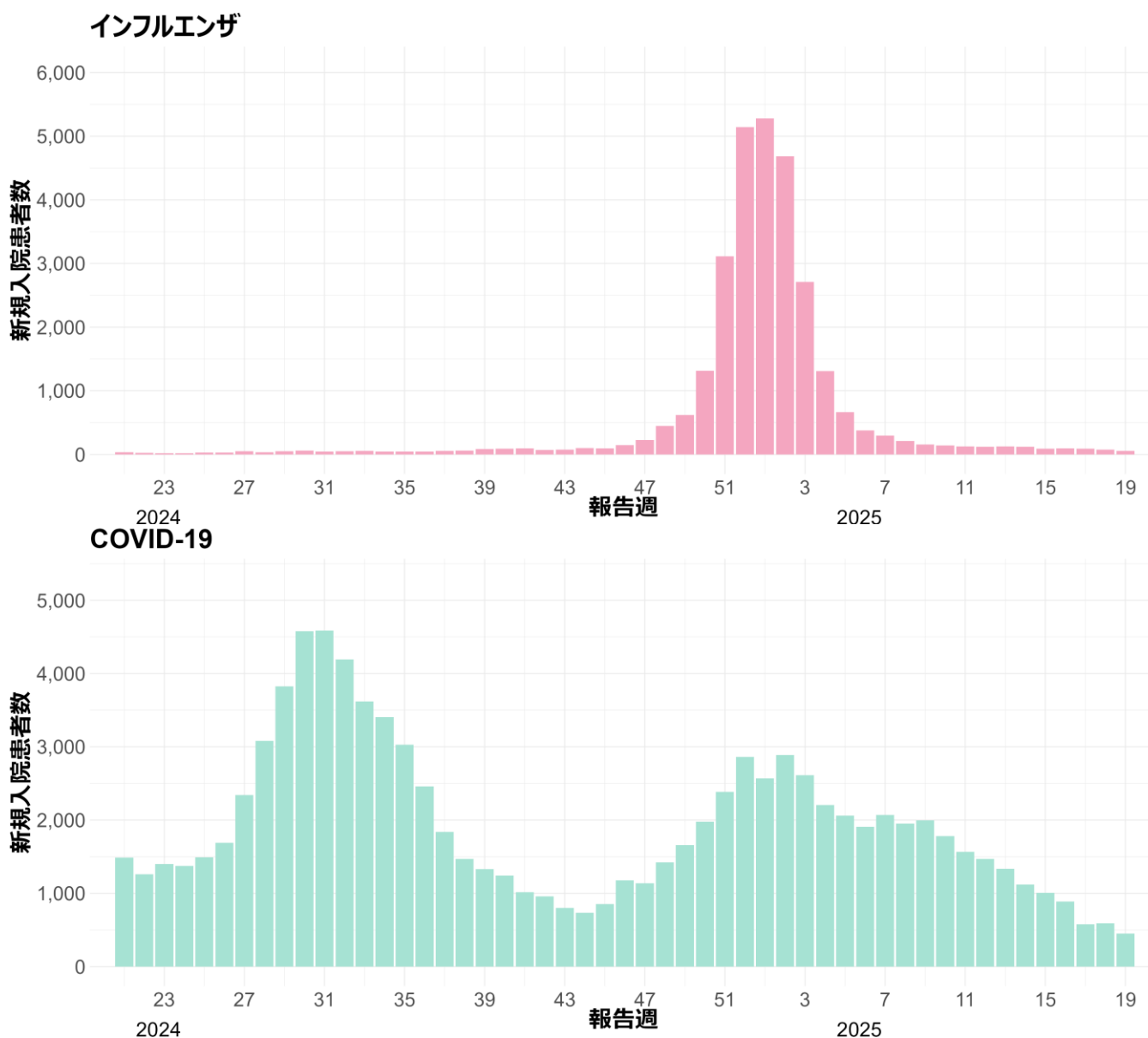
注) 報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数

2025 年第 19 週に基幹定点から報告された、新規入院患者数の推移を図 5 に、年齢群別報告数を表 4 に示す。インフルエンザは 53 例で前週と比較して 20 例減少した。COVID-19 は 449 例で前週と比較して 142 例減少した。

年齢群別でみると、インフルエンザでは 0-9 歳で 7 例、10-59 歳で 13 例、60 歳以上で 33 例であった。COVID-19 では 0-9 歳で 28 例、10-59 歳で 39 例、60 歳以上で 382 例であった。前週と比べてインフルエンザと COVID-19 とともに全ての年齢群で減少した。

図 5: 基幹定点医療機関から報告されたインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数



出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2024 年 5 月 13 日~2025 年 5 月 11 日)

表 4: 当該週における基幹定点医療機関から報告された新規入院患者数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9 歳	7 (0.47)	28 (0.58)
10-59 歳	13 (0.81)	39 (0.85)
60 歳以上	33 (0.79)	382 (0.77)
計	53 (0.73)	449 (0.76)

出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 5 月 5 日~2025 年 5 月 11 日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週の IDWR で還元したデータを用いた。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「―」と表記。

2. 病原体サーベイランスの状況

2.1. 全国の病原体別報告数

急性呼吸器感染症病原体定点(以下、ARI 病原体定点)で 2025 年第 19 週に採取され、集計時点までに報告された検体数は 13 件であった。インフルエンザウイルス A 型、インフルエンザウイルス B 型、SARS-CoV-2、RS ウイルスのいずれも陽性数は 0 件であった(図 6)。

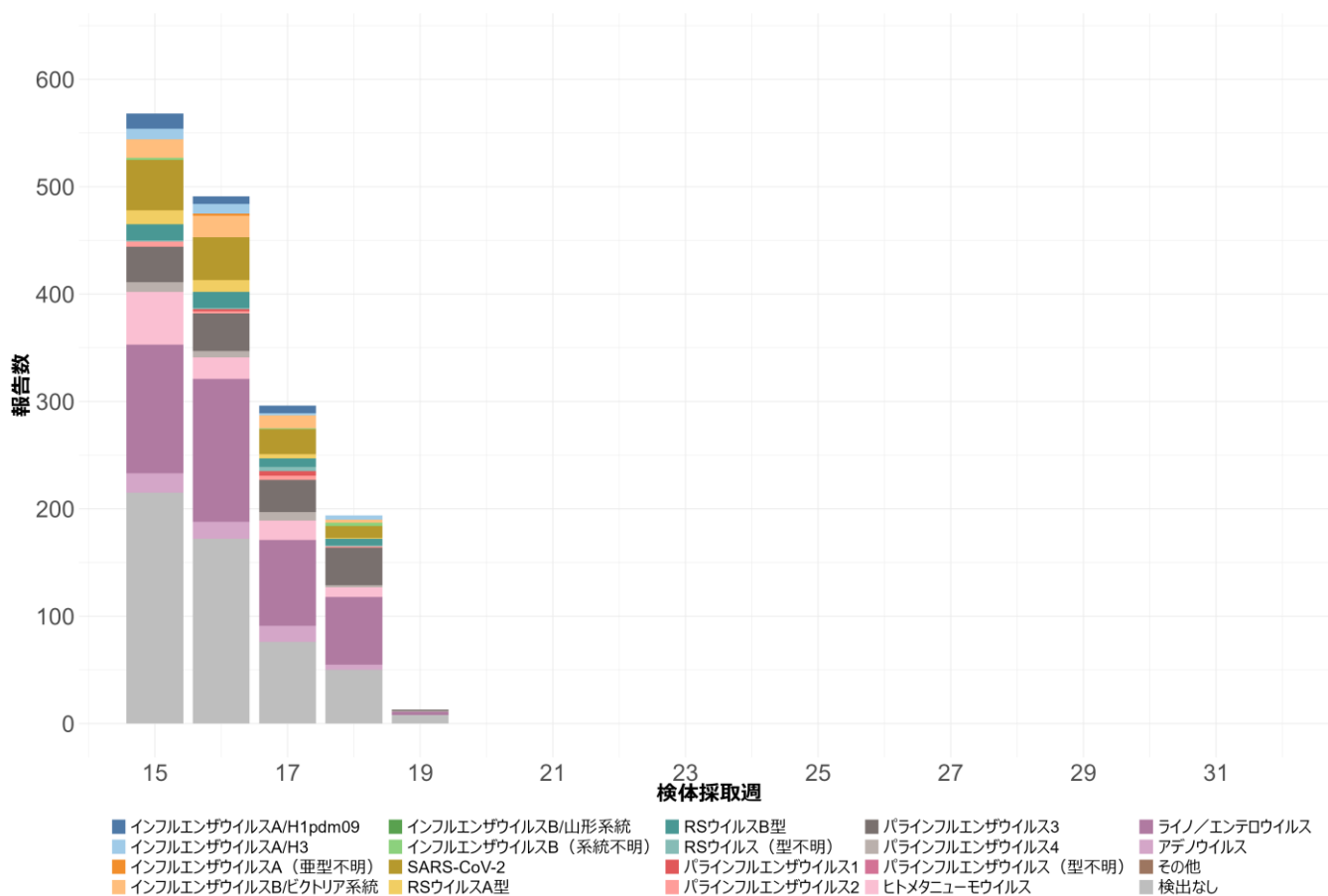
病原体別の陽性率も、インフルエンザウイルス A 型、インフルエンザウイルス B 型、SARS-CoV-2、RS ウイルスのいずれも 0%であった(図 7)。

地域別での週ごとの陽性数を図 8 に示す。

また2025年4月の全国のゲノムサーベイランスによる SARS-CoV-2 の系統別検出状況(月単位)では、XEC 系統とその亜系統がやや減少に転じている(図 9)。

なお検体採取週ごとの医療機関における全自動遺伝子解析装置等による検査結果を参考表に示す。のべ 8 医療機関から報告があり、第 19 週には 2 件の百日咳菌が登録された。

図 6: 検体採取週ごとの病原体別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2025 年 5 月 11 日)

注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

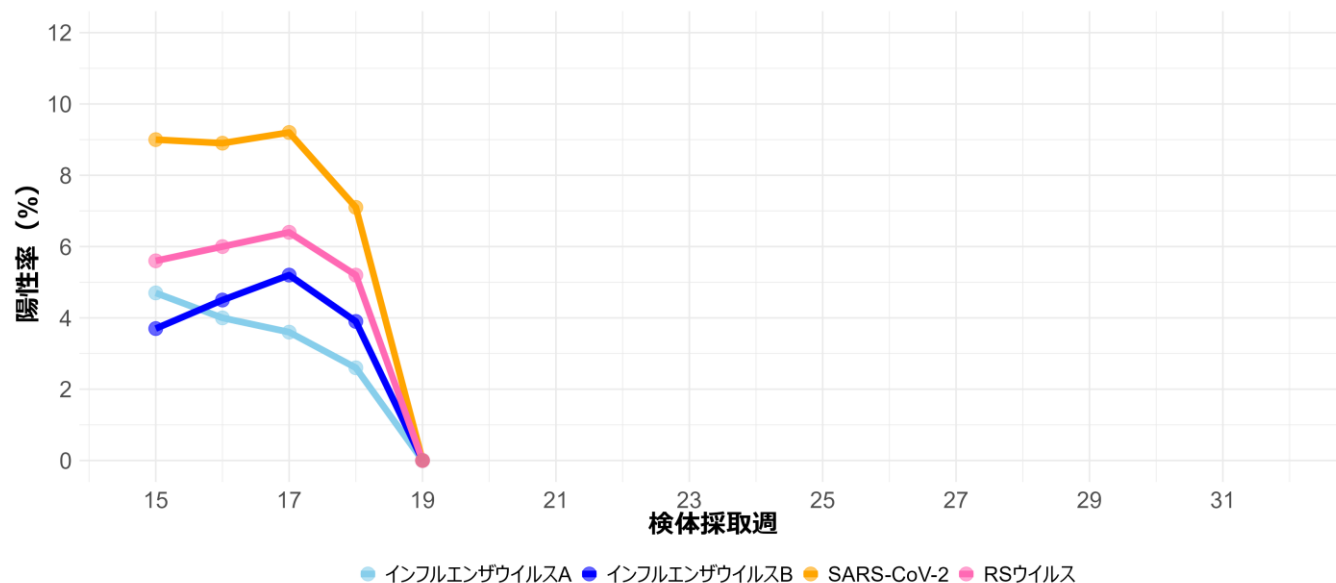
注)1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注)ライノ/エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注)その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。

注)検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

図 7: 検体採取週ごとの病原体別陽性率



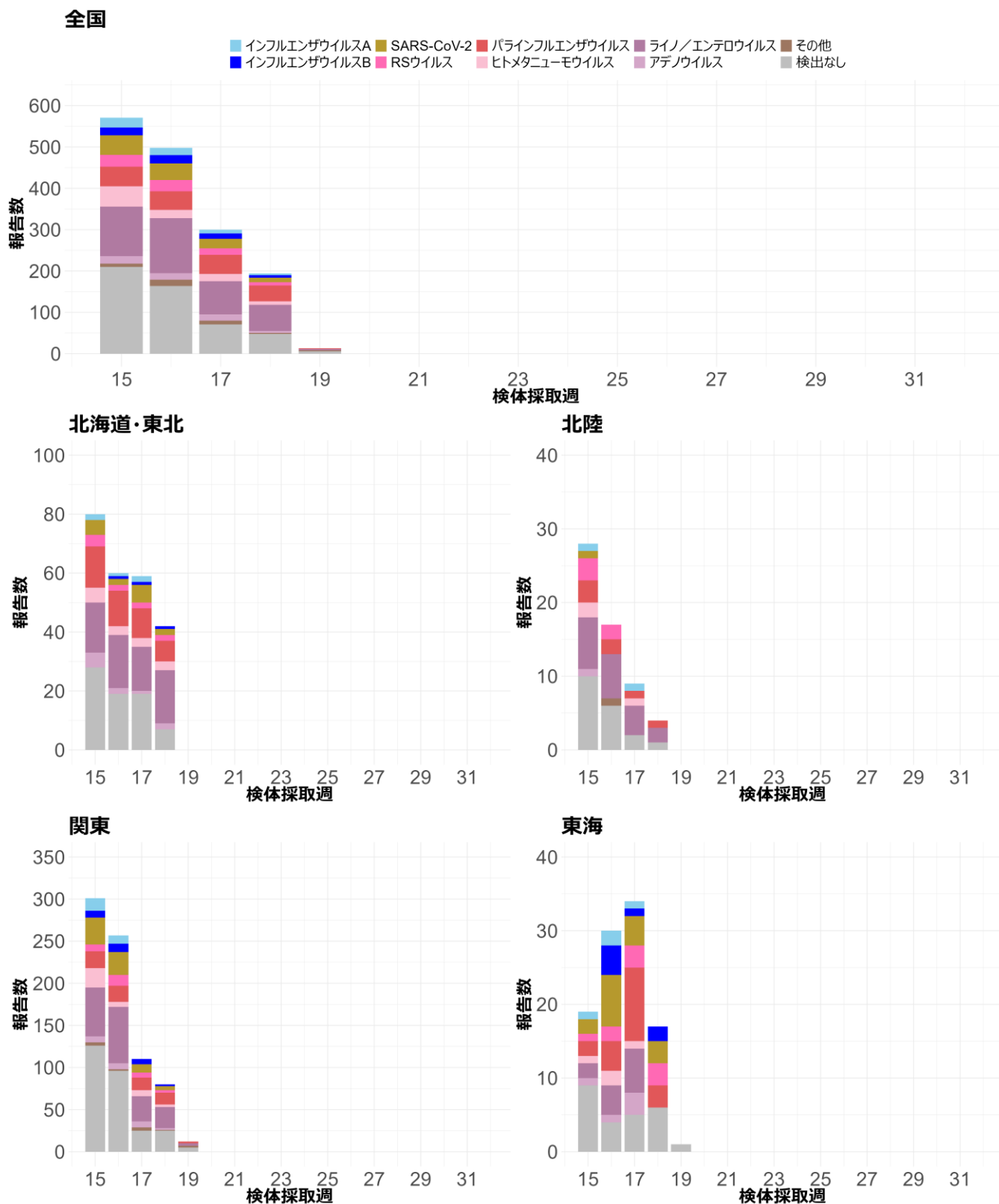
出典: 感染症発生動向調査(2025年5月14日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2025年5月11日)

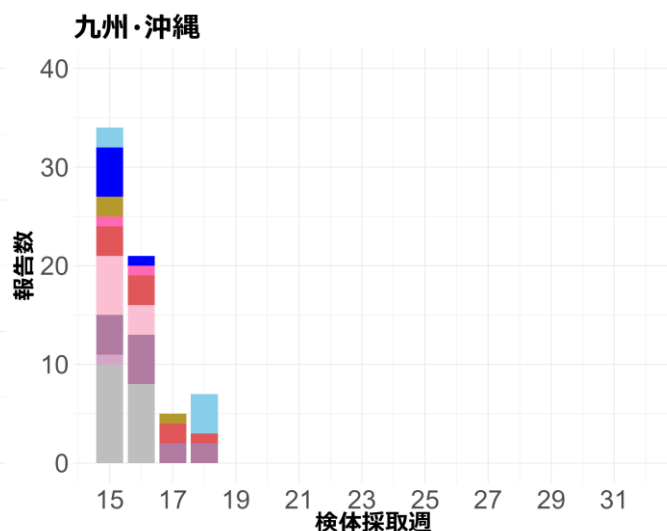
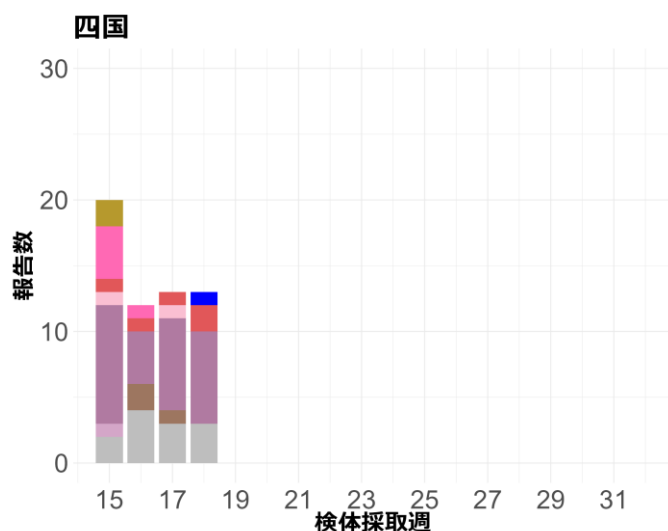
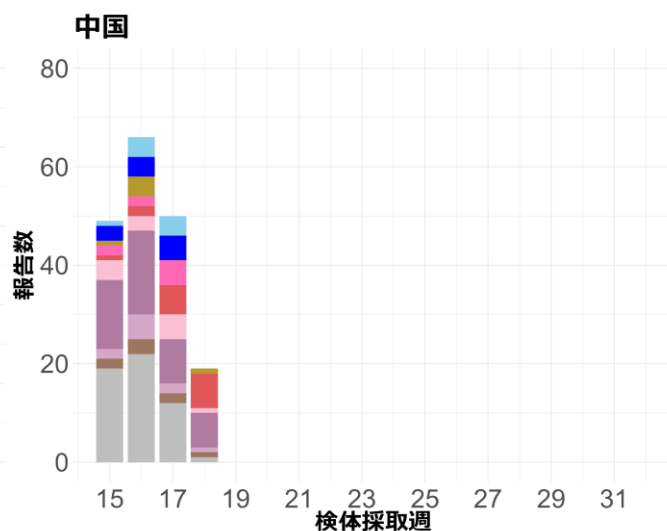
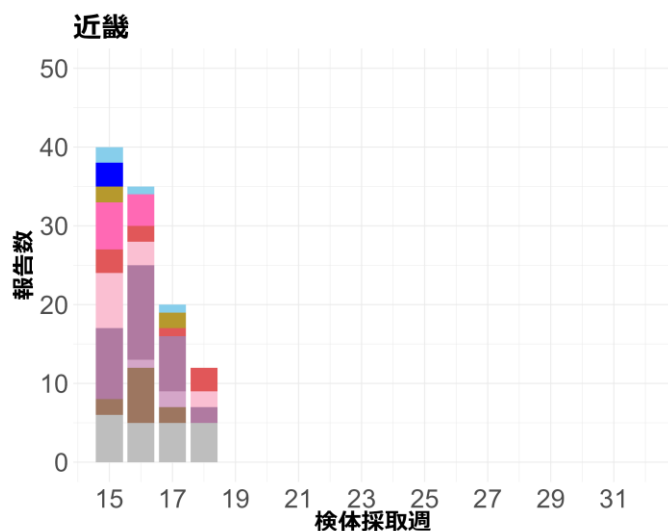
注)陽性率は、対象病原体の検査実施検体数を分母として算出($(\text{陽性数} / \text{検査実施数}) \times 100$)される。

注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

図 8: 検体採取週ごとの全国および地域別、病原体別報告数





出典: 感染症発生動向調査(2025年5月14日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2025年5月11日)

注) 報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注) 集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

注) 1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注) ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注) その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。

注) 検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス

2025年4月の全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況(1月単位)では、XEC 系統とその亜系統がやや減少に転じている。KP.3 系統とその亜系統は減少を続けている(図 9)。なお、2025年4月以降のデータは ARI サーベイランスの一環で実施されたゲノムサーベイランスの結果を集計したものである。

表 5: 全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況

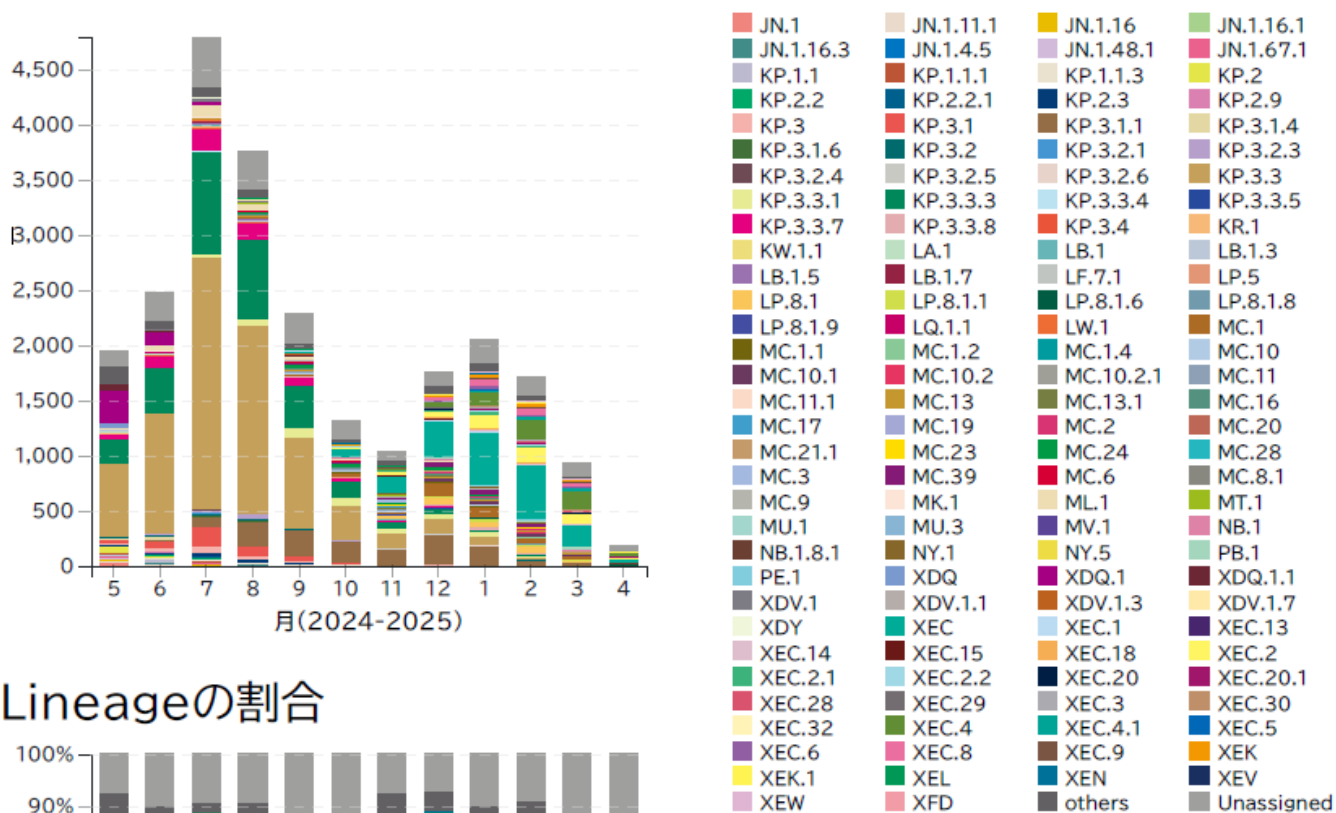
Pango lineage (Nextclade 3.13.3)	検体数 (2025年4月)	割合
KP.3系統	17	9.60%
PE.1	4	2.26%
MC.10.1	3	1.69%
KP.3.1.1	2	1.13%
MC.1	2	1.13%
Others	6	3.39%
XEC系統	94	53.11%
XEC	27	15.25%
XEC.4	25	14.12%
XEC.2	13	7.34%
XEC.8	5	2.82%
XEC.4.1	5	2.82%
XEC.20.1	5	2.82%
XEC.30	4	2.26%
XEC.2.2	4	2.26%
XEC.25.1	2	1.13%
Others	4	2.26%
その他	66	37.29%
NB.1.8.1	12	6.78%
XEK.1	3	1.69%
LP.8.1.1	2	1.13%
Others	9	5.08%
Unassigned	40	22.60%
総計	177	100.00%

出典: 新型コロナウイルスゲノムサーベイランス

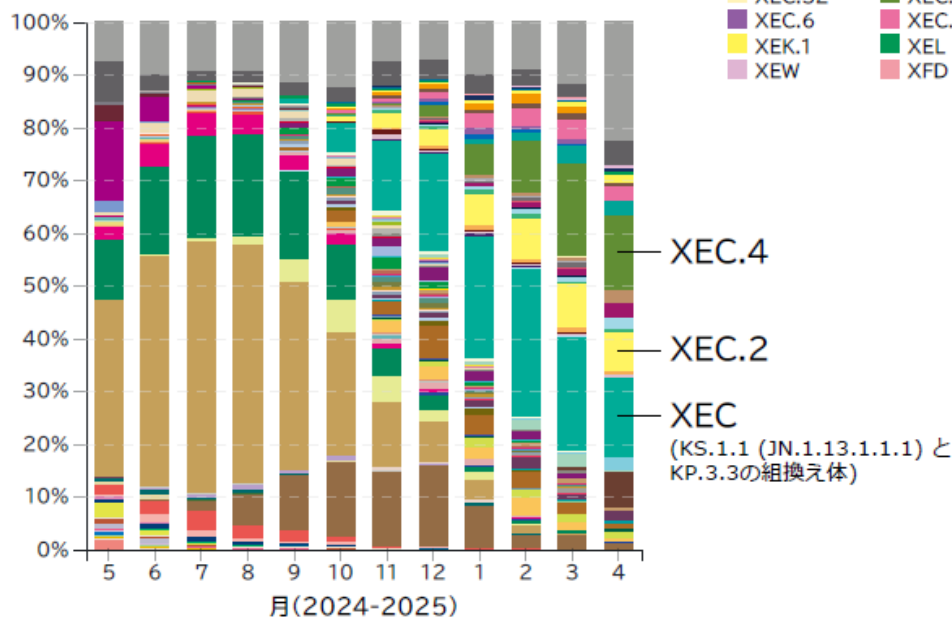
注)赤字は割合の上位 3 系統、表は検出割合が 1%未満の lineage は Others として記載。

図 9: 国内におけるゲノムサーベイランスの状況(上図: Lineage の積み上げ、下図: Lineage の割合(%))

Lineageの検出数(積み上げ)



Lineageの割合



出典: 新型コロナウイルスゲノムサーベイランス

なお、世界的に VUM(Variant under Monitoring) の中では LP.8.1 系統が最も流行している。その他の VUM の割合に大きな変化はない。既存の亜系統と比較して公衆衛生的なリスクに変化はない。
(参考: WHO の指定する変異株 VOI(Variant of Interest)は JN.1/VUM は KP.3、KP.3.1.1、LB.1、XEC、LP.8.1)

参考: 検体採取週ごとの全自動遺伝子解析装置等による検査結果

全自動遺伝子解析装置を設置している医療機関における病原体検査の結果をモニタリングするために、任意の医療機関の協力により集められた検査結果である。

病原体	第 15 週	第 16 週	第 17 週	第 18 週	第 19 週
インフルエンザウイルス A/H1	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A/H1-2009	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A/H3	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A(亜型不明)	1	1	1	0	0
インフルエンザウイルス B	0	0	1	0	0
SARS-CoV-2	1	2	5	1	0
RS ウイルス	2	2	1	5	0
パラインフルエンザウイルス 1	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 2	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 3	0	0	0	1	0
パラインフルエンザウイルス 4	0	0	1	0	0
パラインフルエンザウイルス(型不明)	0	1	0	0	0
ヒトライノウイルス／エンテロウイルス	2	5	3	0	0
ヒトメタニューモウイルス	1	1	0	0	0
アデノウイルス	0	1	1	0	0
コロナウイルス HKU1	0	0	0	0	0
コロナウイルス NL63	0	0	0	0	0
コロナウイルス 229E	0	0	0	0	0
コロナウイルス OC43	0	0	0	0	0
百日咳菌	0	1	0	0	2
パラ百日咳菌	0	0	0	0	0
クラミジア・ニューモニエ	0	1	0	0	0
マイコプラズマ・ニューモニエ	0	3	0	0	0

出典: 感染症発生動向調査(2025 年 5 月 14 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2025 年 5 月 11 日)

注)医療機関からの任意の協力による報告であるため報告数は参考値である。協力いただいた医療機関は、現時点で 8 医療機関である。

注)ライノ/エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注意事項

本報では、急性呼吸器感染症定点および小児科定点としてあらかじめ指定された医療機関から週単位で報告された患者数を全国および都道府県ごとに集計した数値を用いている。都道府県別あるいは性別・年齢階級別報告数の詳細については感染症発生動向調査週報(IDWR)を参照されたい。なお、本報および IDWR に掲載されている数値は暫定値であるため、年報での数値とは必ずしも一致しない。

患者サーベイランスの集計には感染症発生動向調査に報告されたデータのうち直近 1 週間は集計日時点のデータを、それ以前は最初の集計時点のデータを再掲している。遅れて報告されたり、修正されたりする場合があるため、集計値は暫定値であることに注意が必要である。

病原体サーベイランスの集計では、全ての週に関して集計時点のデータを掲載している。自治体/地方衛生研究所によって集められた検体に対する病原体検査項目が異なることがある。また、自治体/地方衛生研究所によって検査実施および報告に要する日数が異なるため、検体採取週における病原体検出数は遅れて報告される、あるいは修正されることがあり集計値は暫定値であることに注意が必要である。

急性呼吸器感染症定点は、内科定点に比べ小児科定点が多く選択されている。定点から報告されたインフルエンザ、COVID-19 症例に占める各年齢群の割合については、小児に偏る可能性がある。一方、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握、年齢群ごとの傾向と水準の評価の観点においては影響を与えない。

年末・年始(第 52 週~第 1 週頃)、ゴールデンウィーク(第 18 週頃)、お盆(第 33 週頃)、シルバーウィーク(第 39 週頃)等の週では、報告数が減少する傾向があり解釈には注意が必要である。なお、祝日、休日の並び等によって該当する週は年によって異なる。

従来の警報・注意報は保健所ごとの報告数を用いて検討・設計されており、定点数の設計および定点医療機関が変更された 2025 年 4 月 7 日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。急性呼吸器感染症定点の運用時でのインフルエンザをはじめとする各感染症の警報・注意報といったアラートについてはデータの蓄積の上で検討を進める。なお、このような限界を理解したうえで従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。

急性呼吸器感染サーベイランスは 2025 年 4 月から開始されており、報告数のレベルの評価にはデータの蓄積を要する。その動向の推移を注視していく必要がある。

地域の定義

北海道・東北地方: 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県

北陸地方: 新潟県、富山県、石川県、福井県

東海地方: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

参考サイト

●感染症発生動向調査週報(IDWR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>

●病原微生物検出情報(IASR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/index.html>

●国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/>

・インフルエンザ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/010/influ-top.html>

・ヒトに感染するコロナウイルス(新型コロナウイルス感染症)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/coronavirus/010/coronavirus.html>

・RS ウイルス感染症

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/rs/010/rs-intro.html>

・咽頭結膜熱

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/adeno/010/pcf-intro.html>

・ヘルパンギーナ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/herpangina/010/herpangina.html>

●厚生労働省 感染症情報

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/index.html

・急性呼吸器感染症(ARI)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ari.html>

・急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスに係る具体的な方針について (PDF: 1096KB)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001272561.pdf>

・インフルエンザ(総合ページ)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

・新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

・RS ウイルス感染症 Q&A(令和6年5月 31 日改訂)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

・咽頭結膜熱

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/pcf.html

・ヘルパンギーナ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/herpangina.html

●新型コロナウイルスのゲノムサーベイランス(検疫検体:入国者検疫検体を含む)について

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/532/article/030/index.html>

●SARS-CoV-2 変異株について

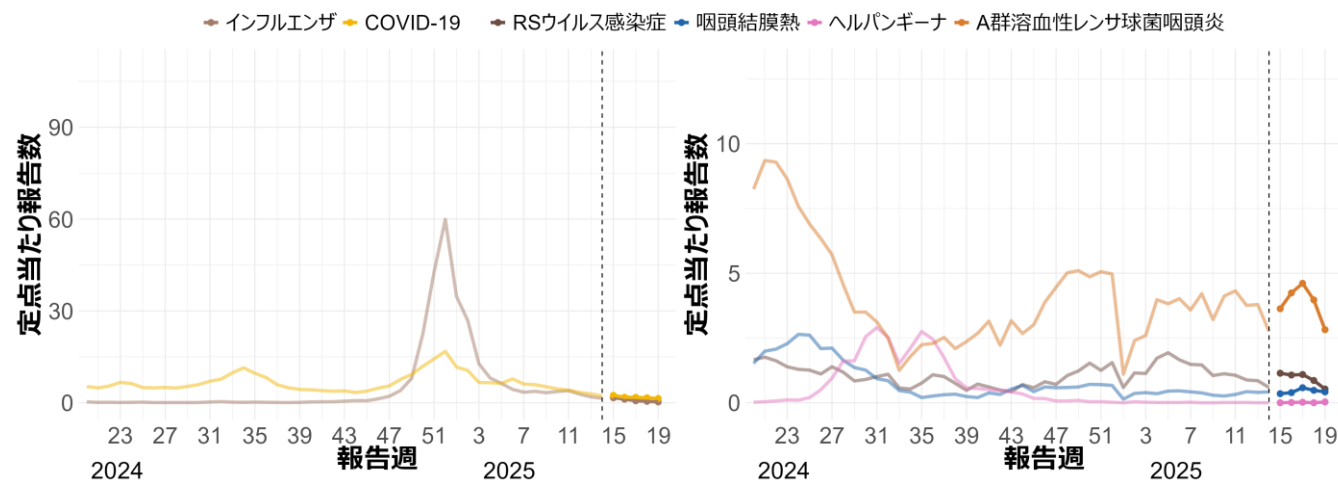
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/covid-19/180/flu2-1-1.html>

●都道府県番号について (PDF: 68KB)

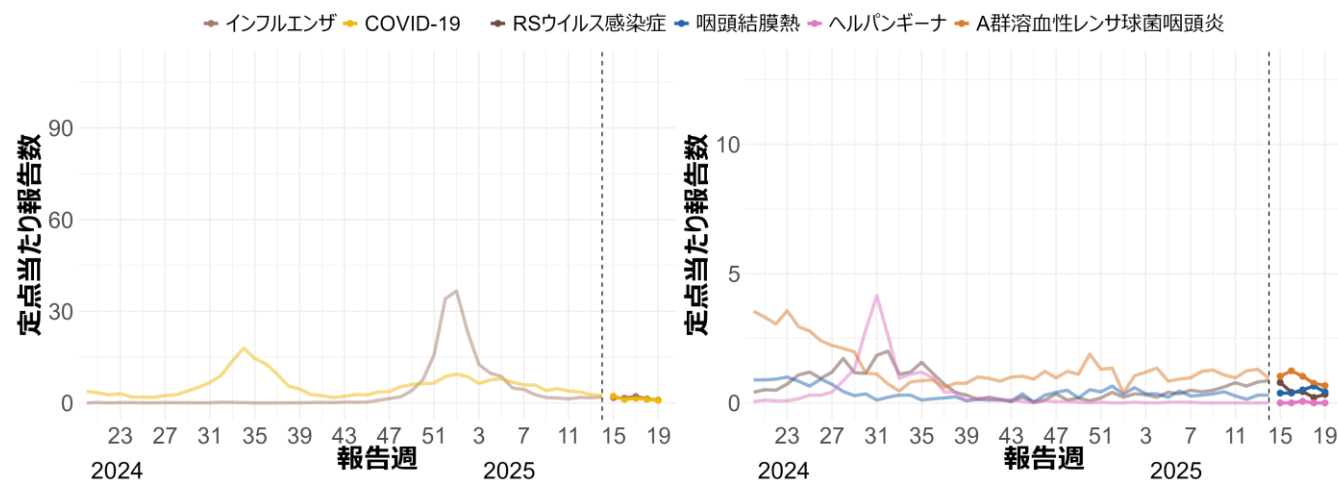
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2007/07/dl/tp0727-1d.pdf>

参考: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数

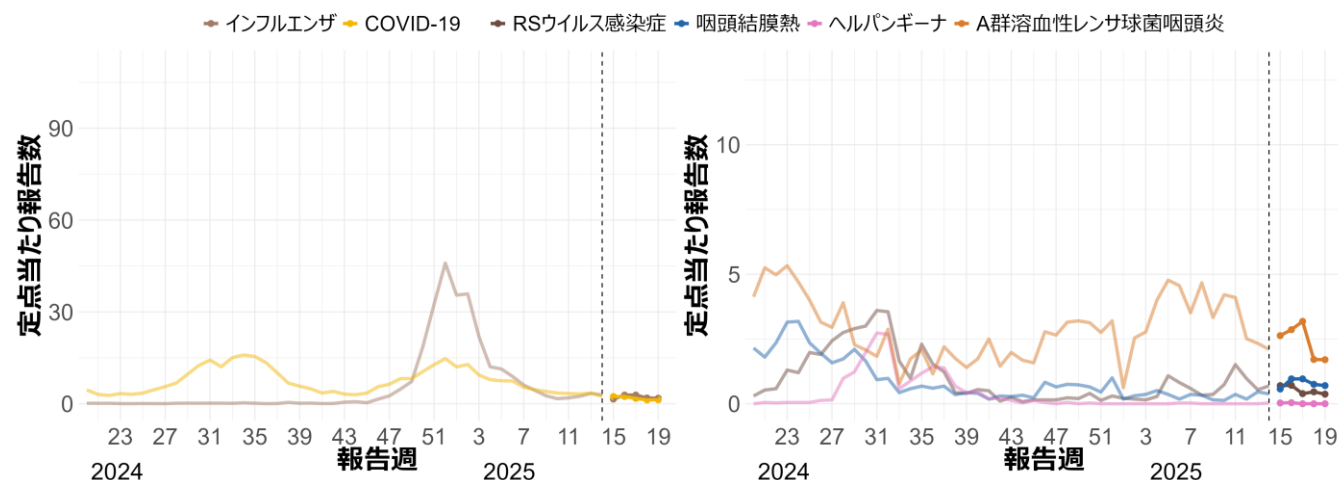
北海道



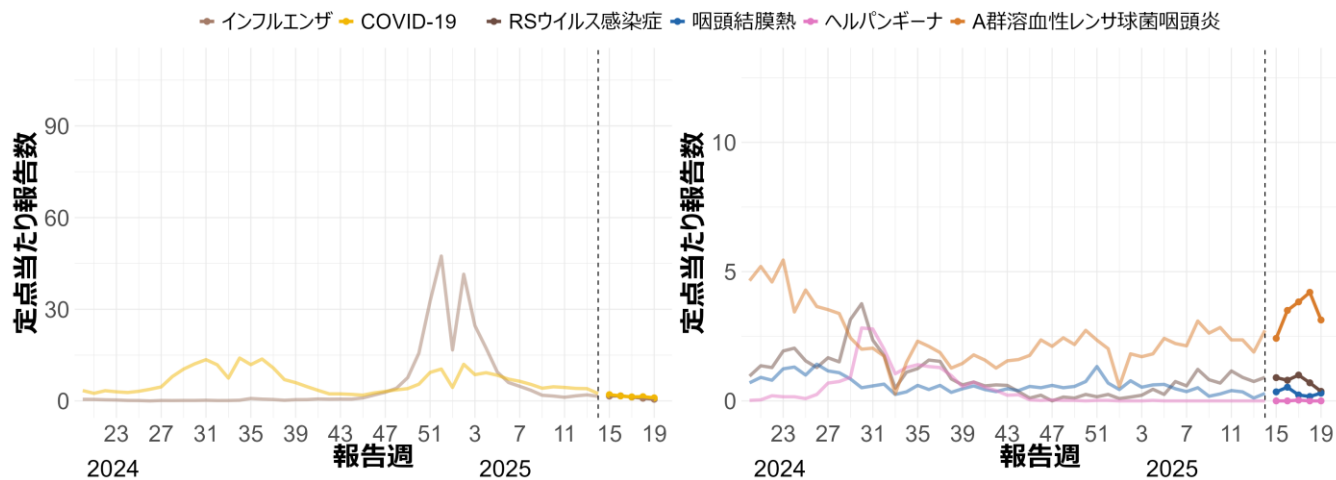
青森県



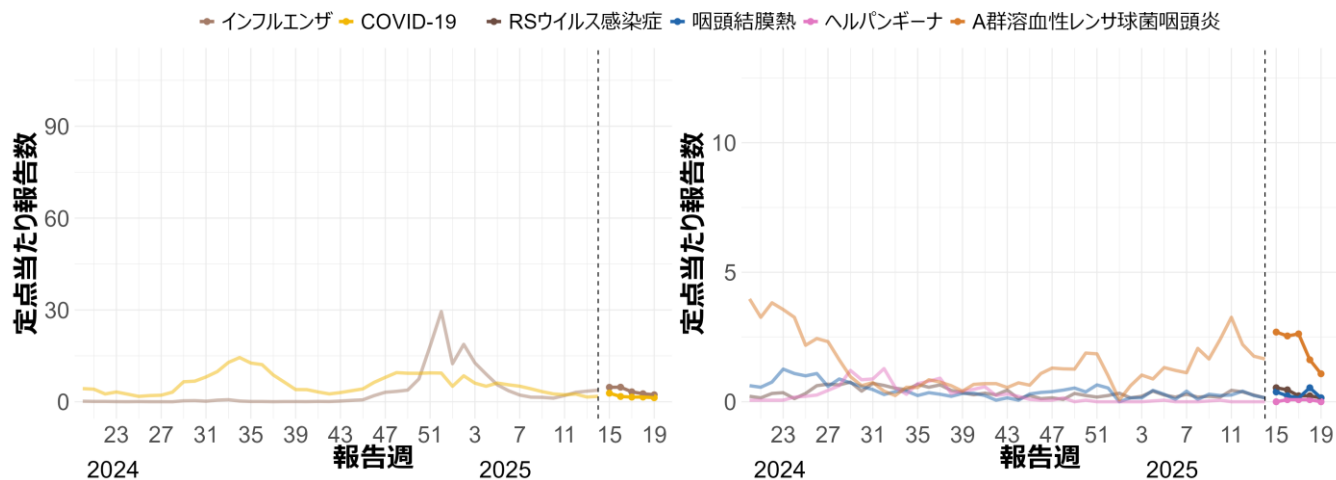
岩手県



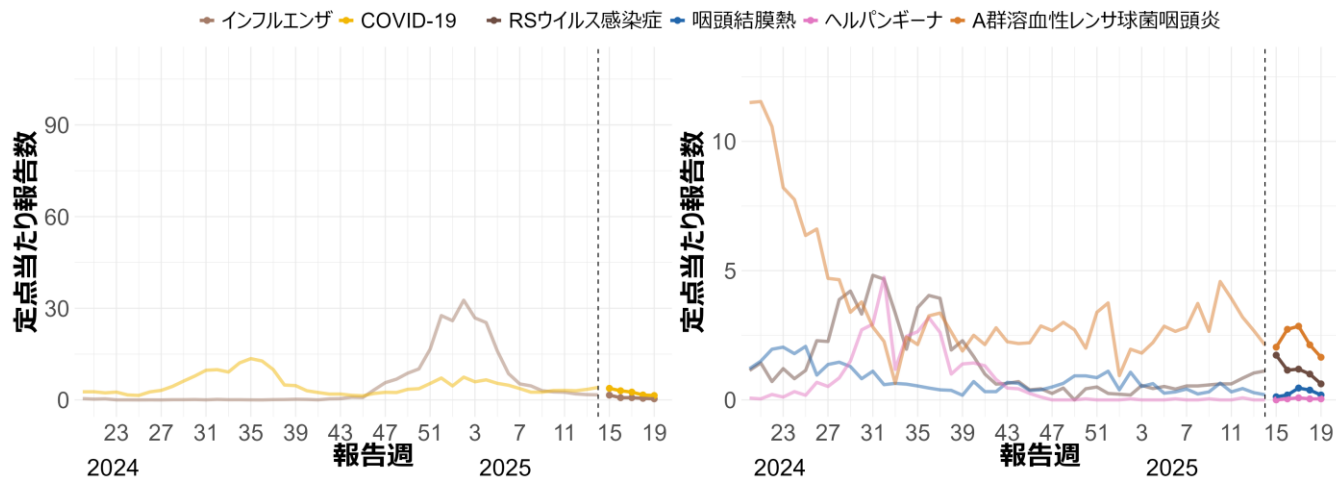
宮城県



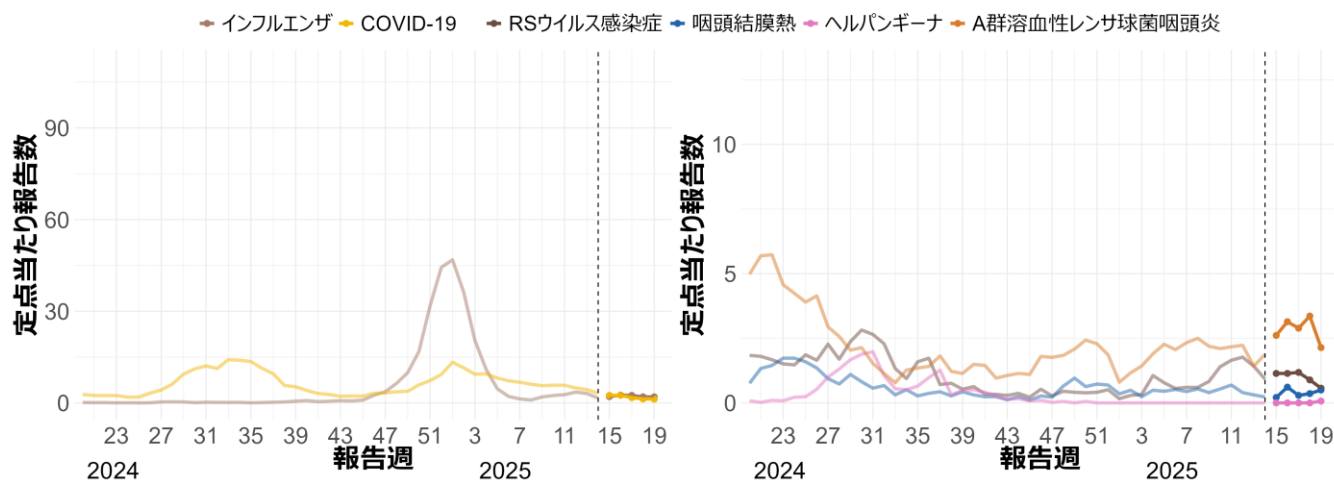
秋田県



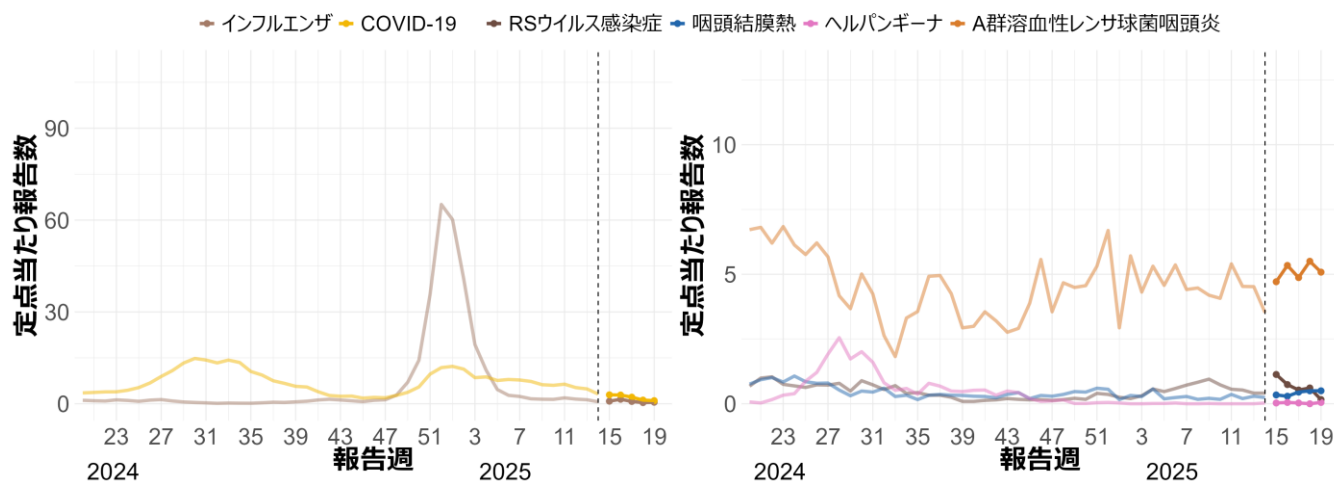
山形県



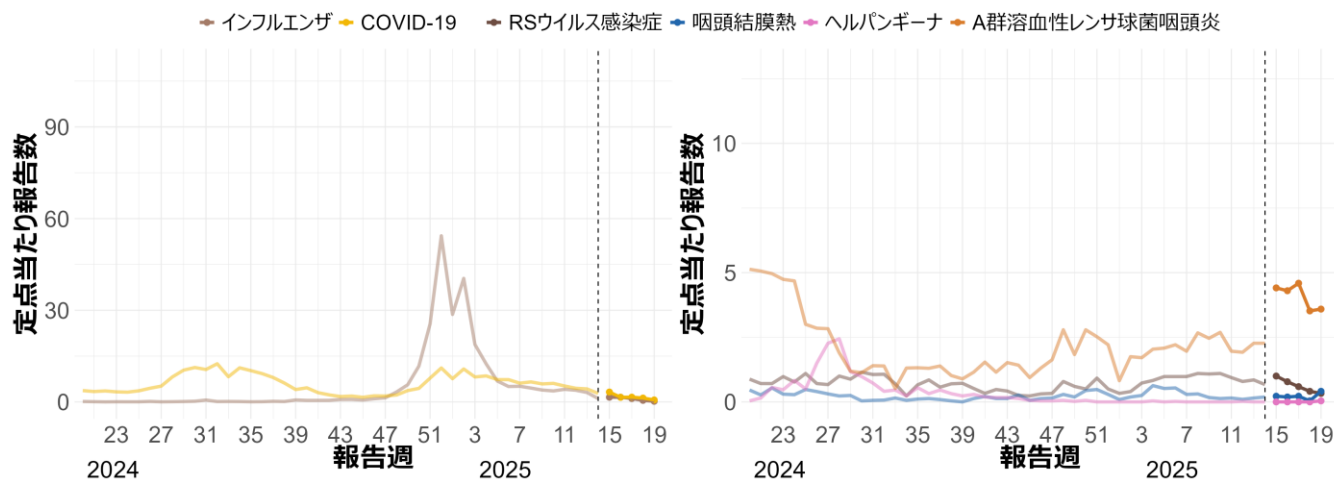
福島県



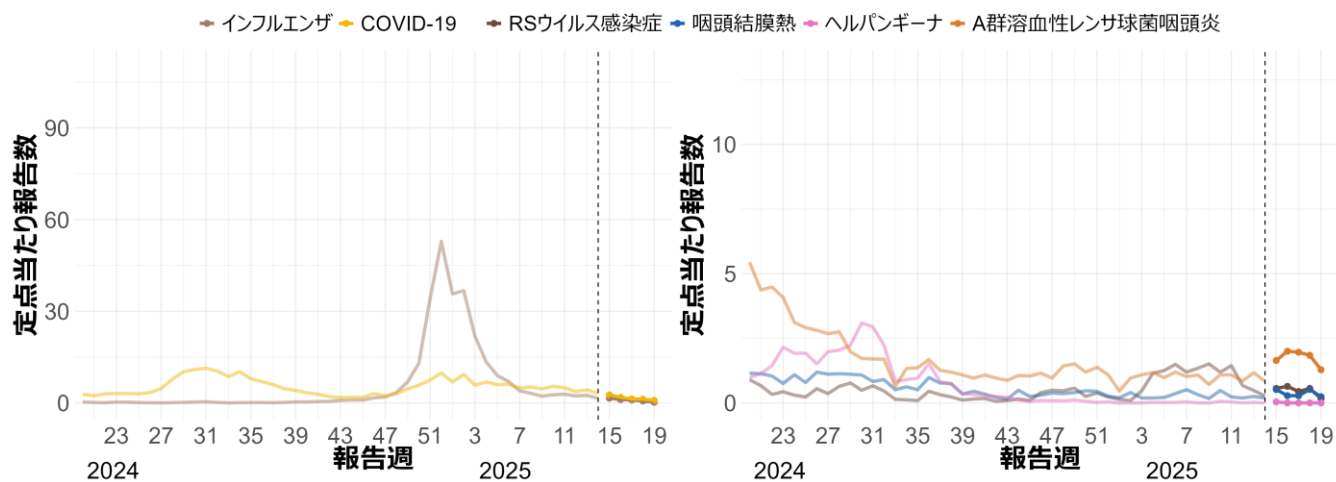
茨城県



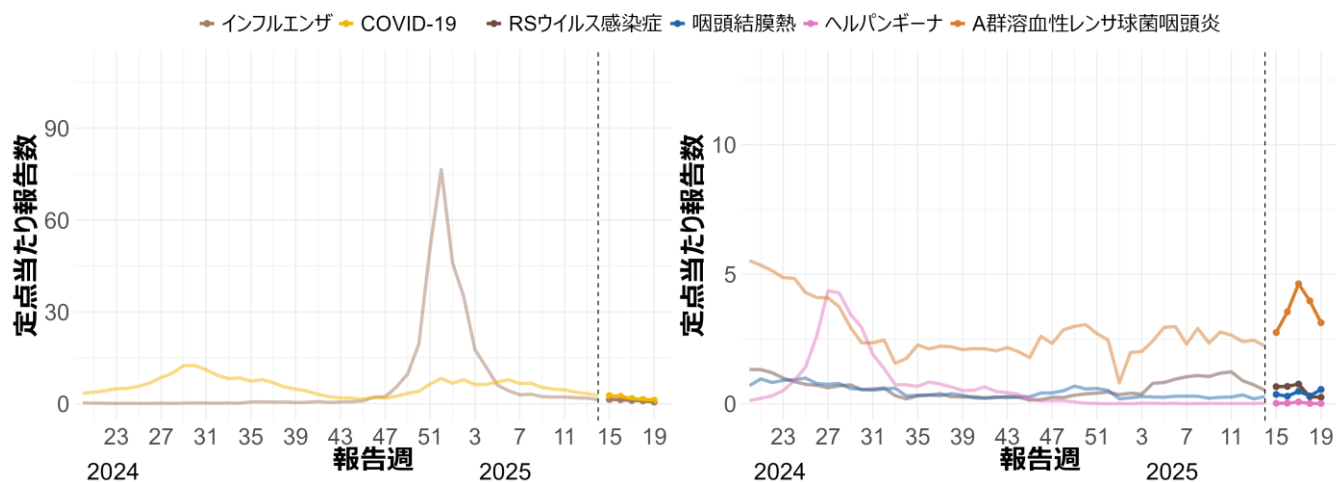
栃木県



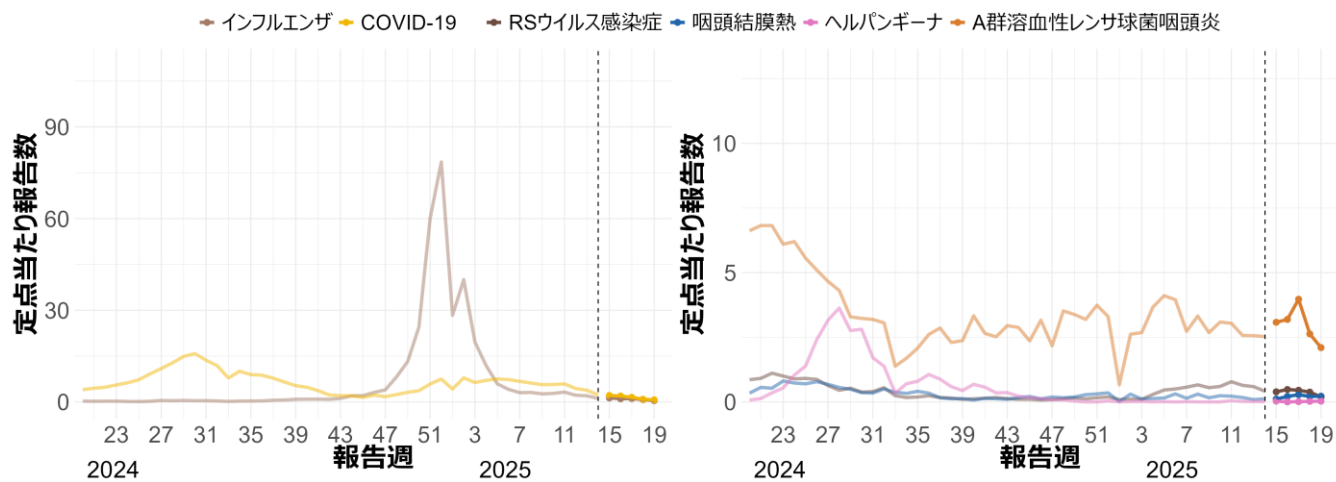
群馬県



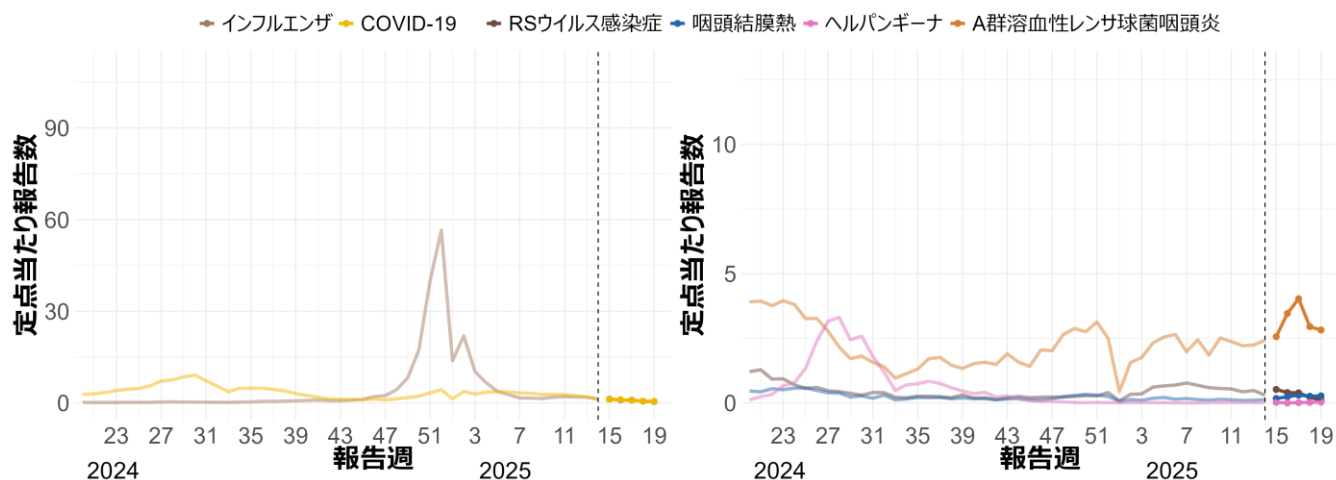
埼玉県



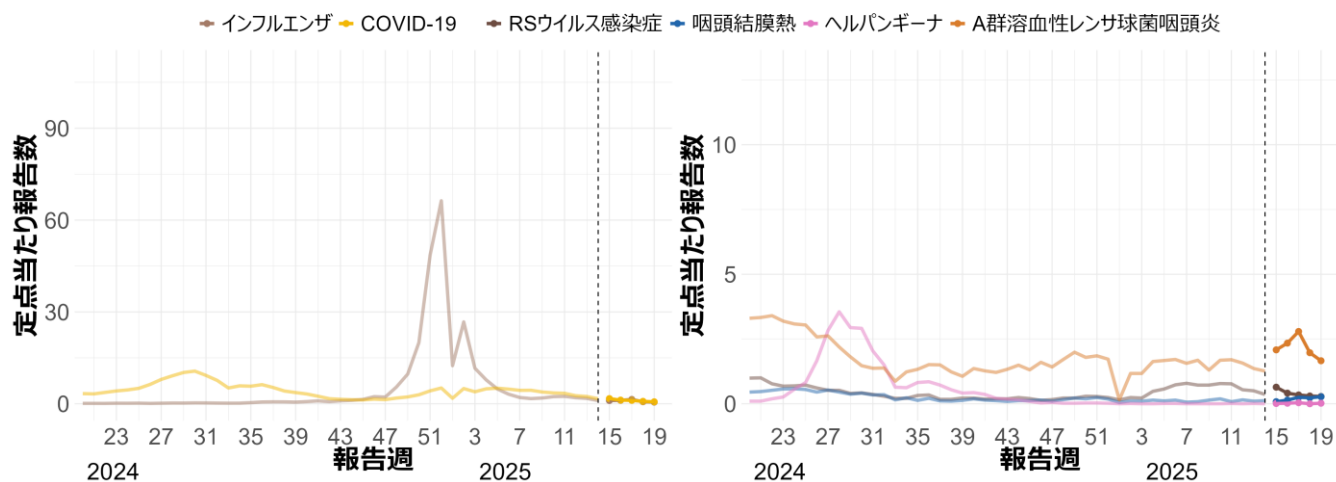
千葉県



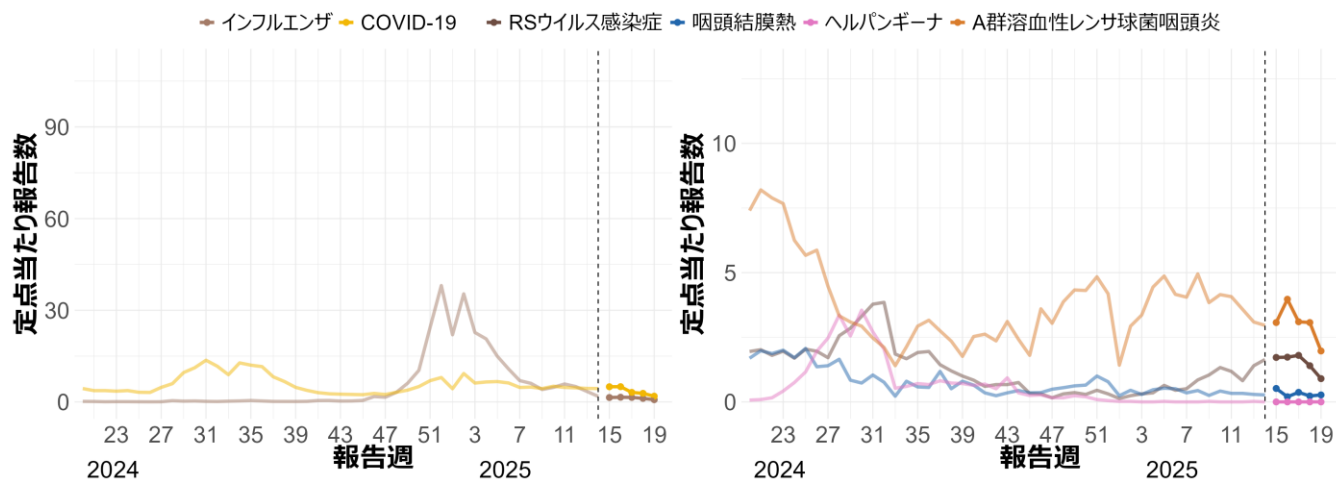
東京都



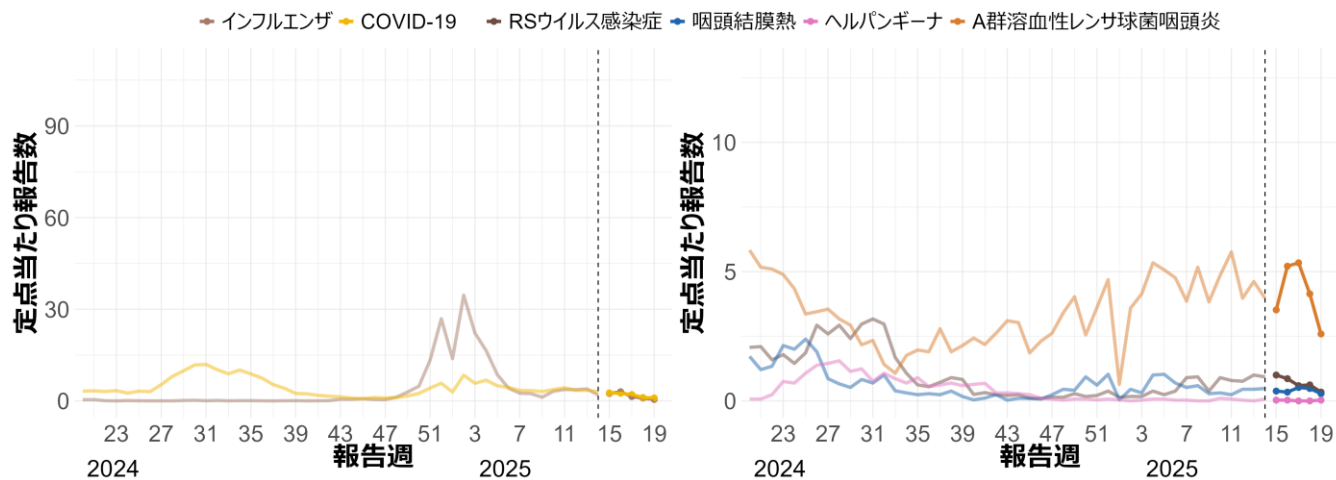
神奈川県



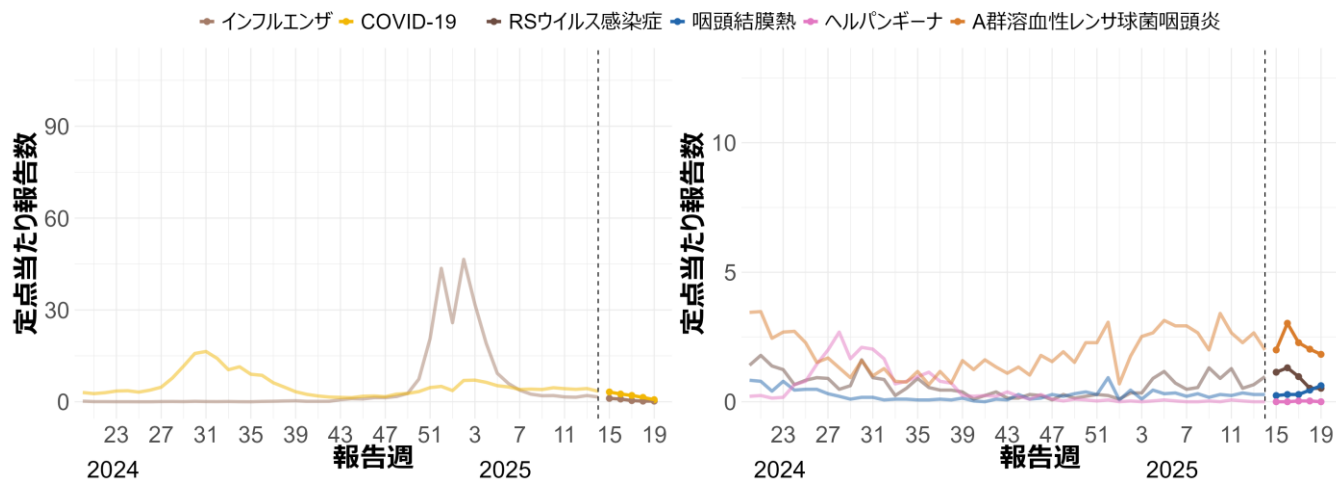
新潟県



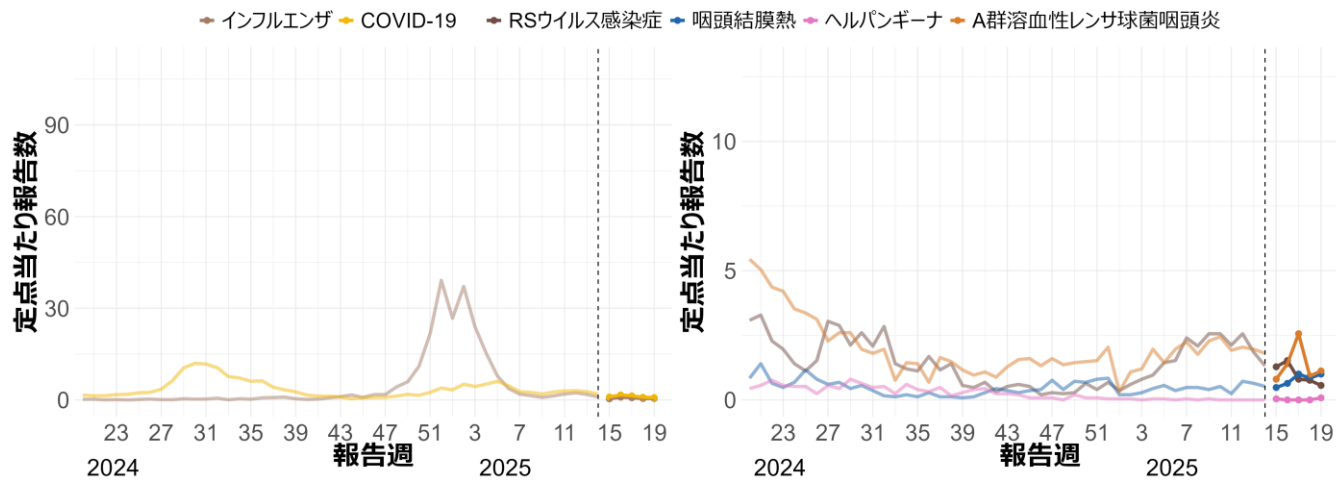
富山県



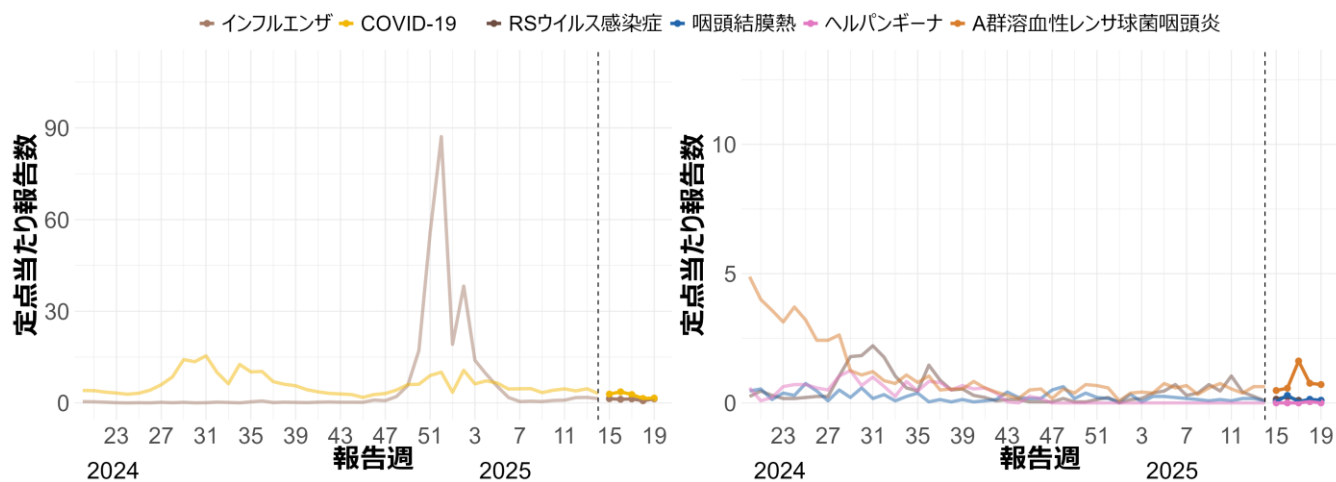
石川県



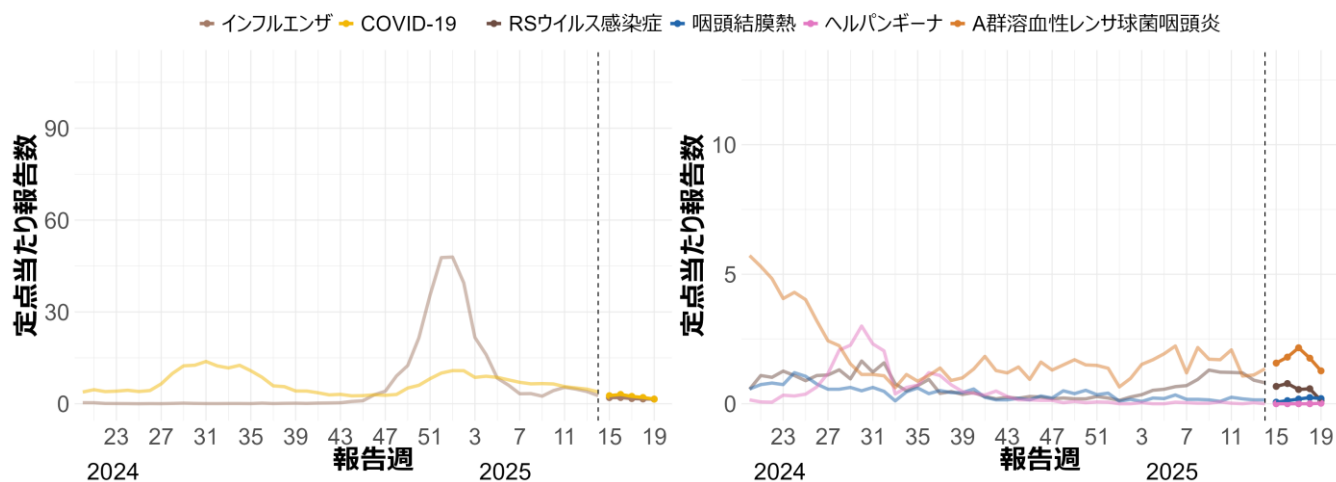
福井県



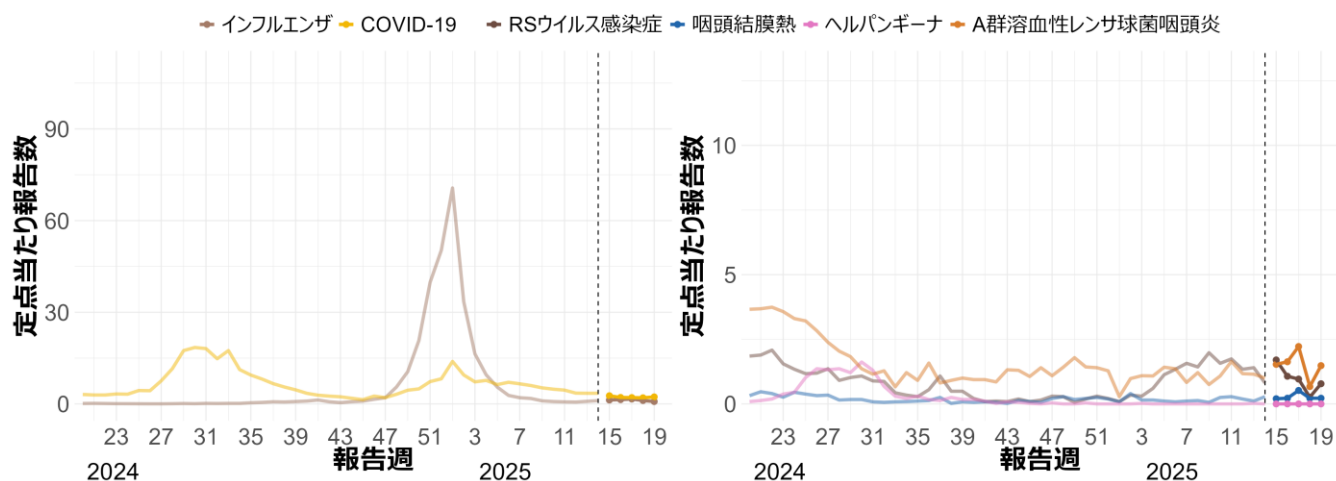
山梨県



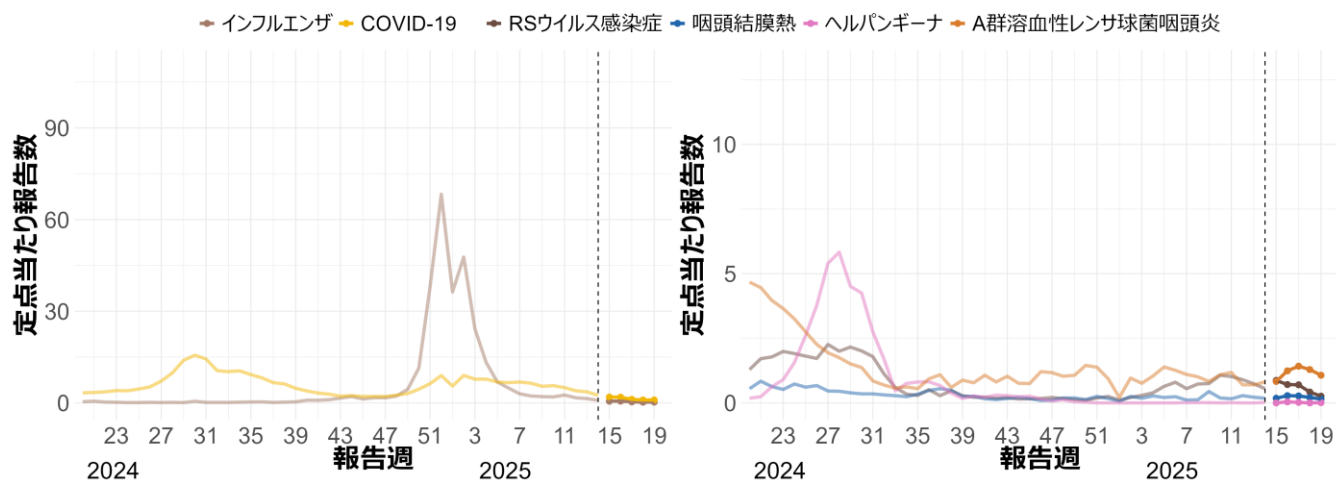
長野県



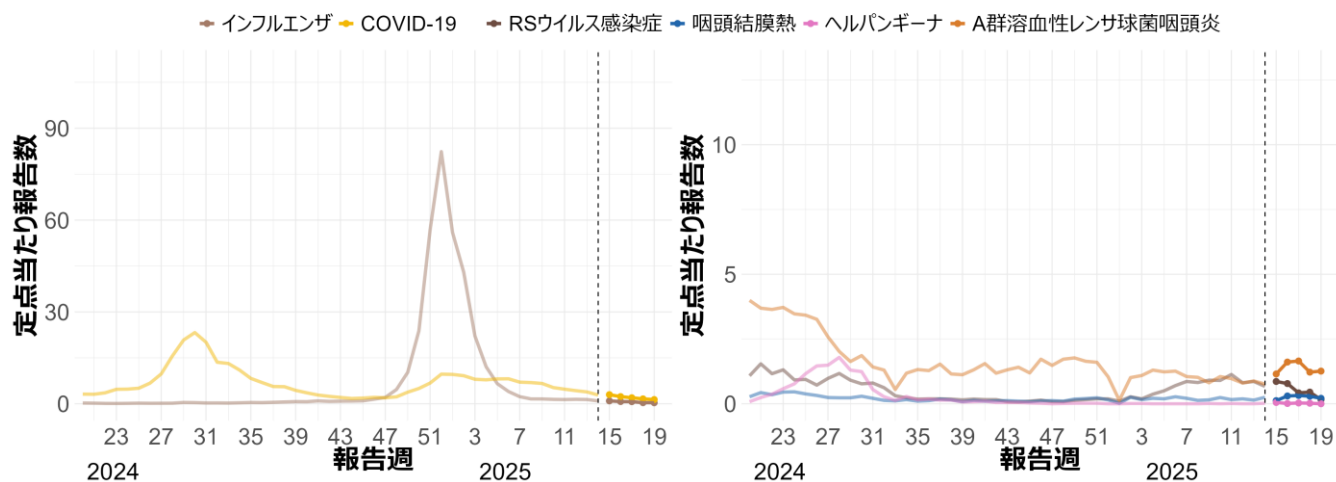
岐阜県



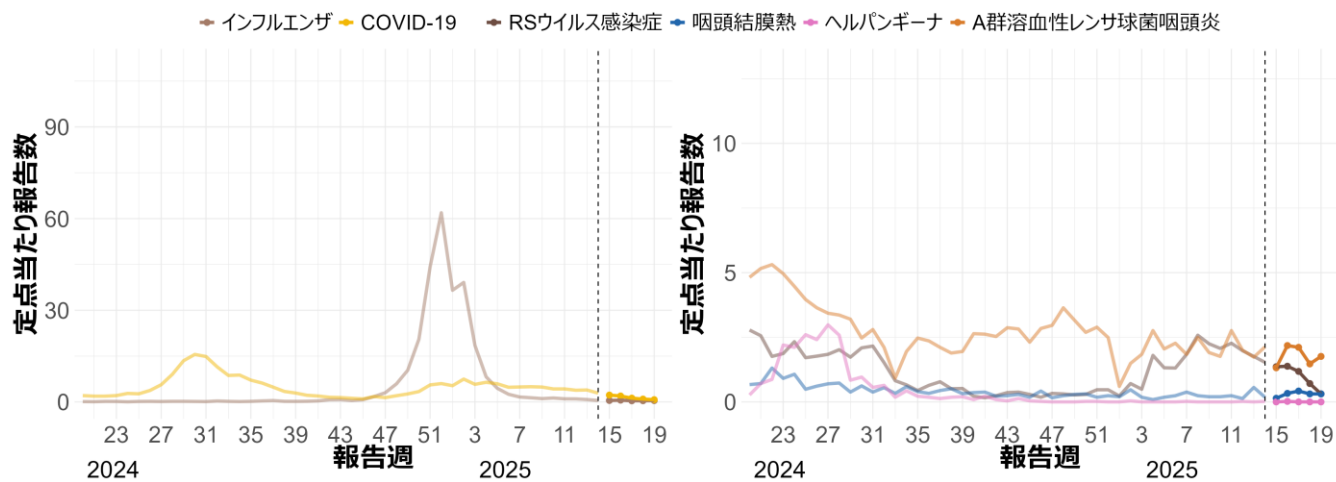
静岡県



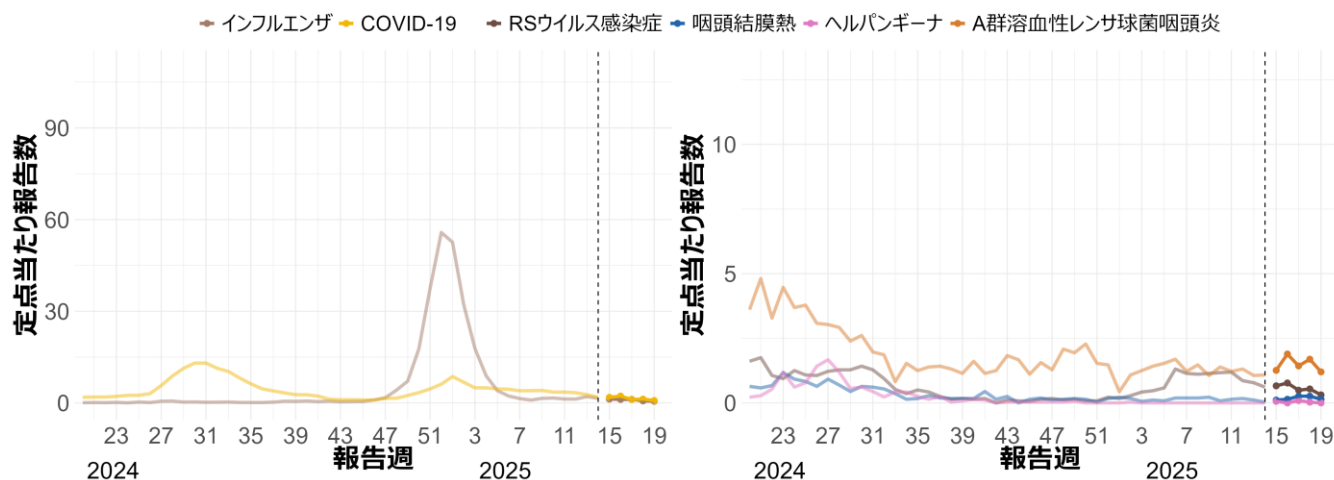
愛知県



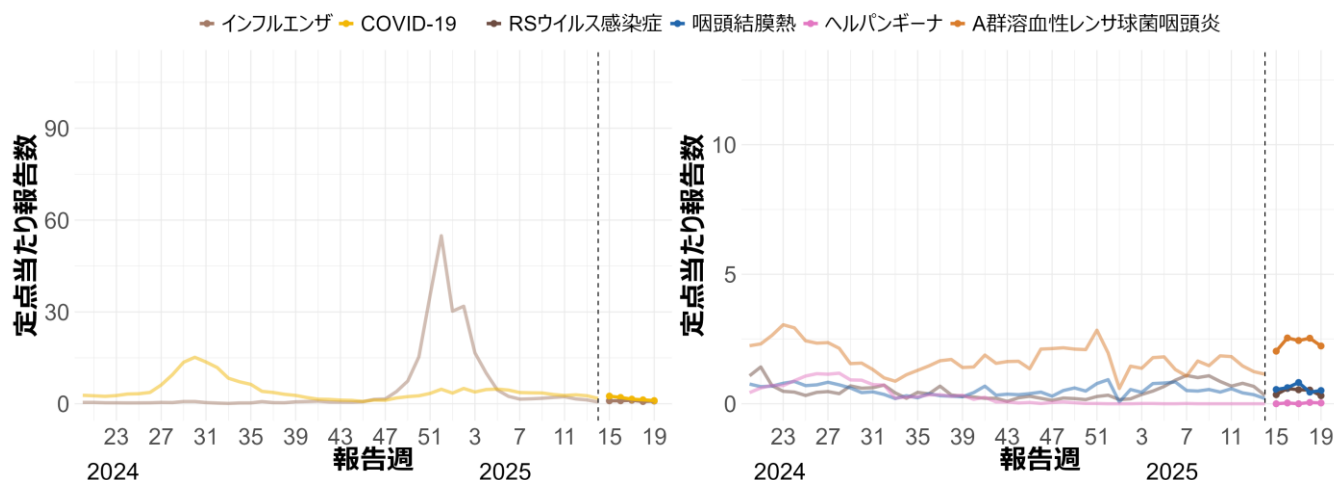
三重県



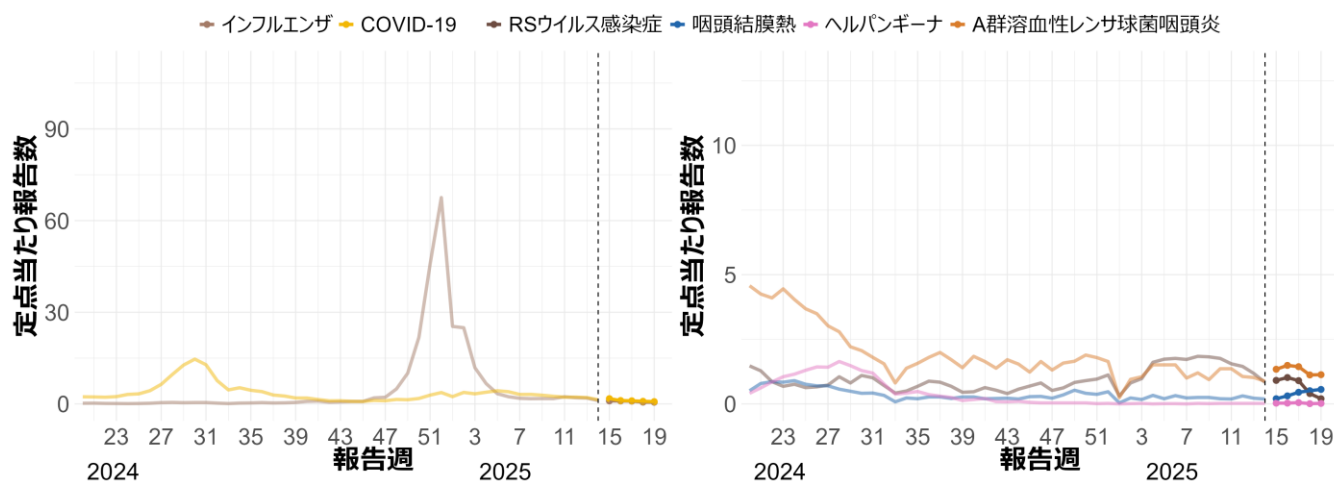
滋賀県



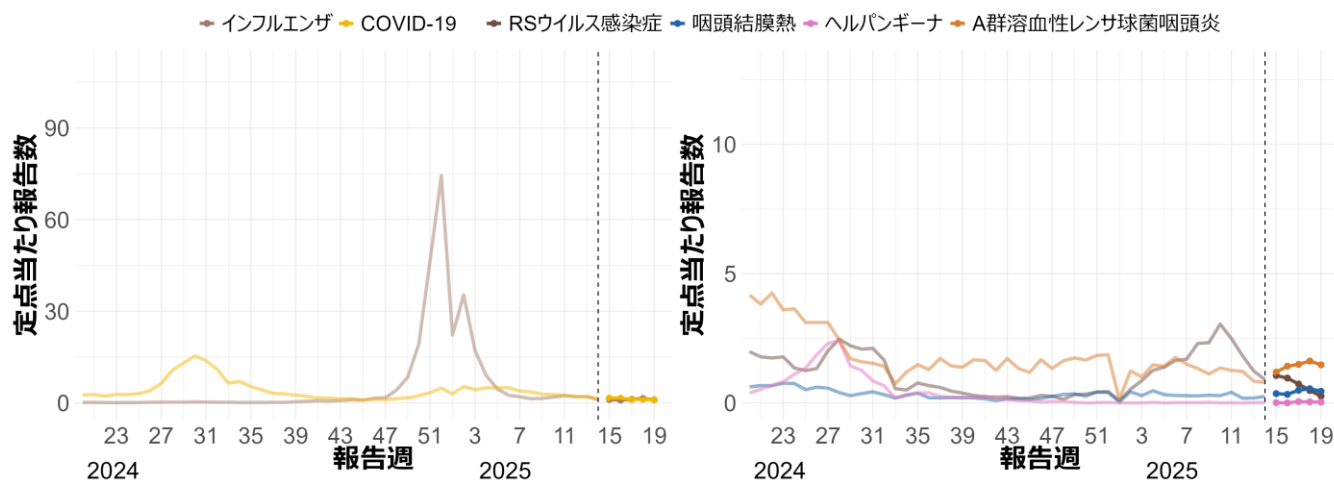
京都府



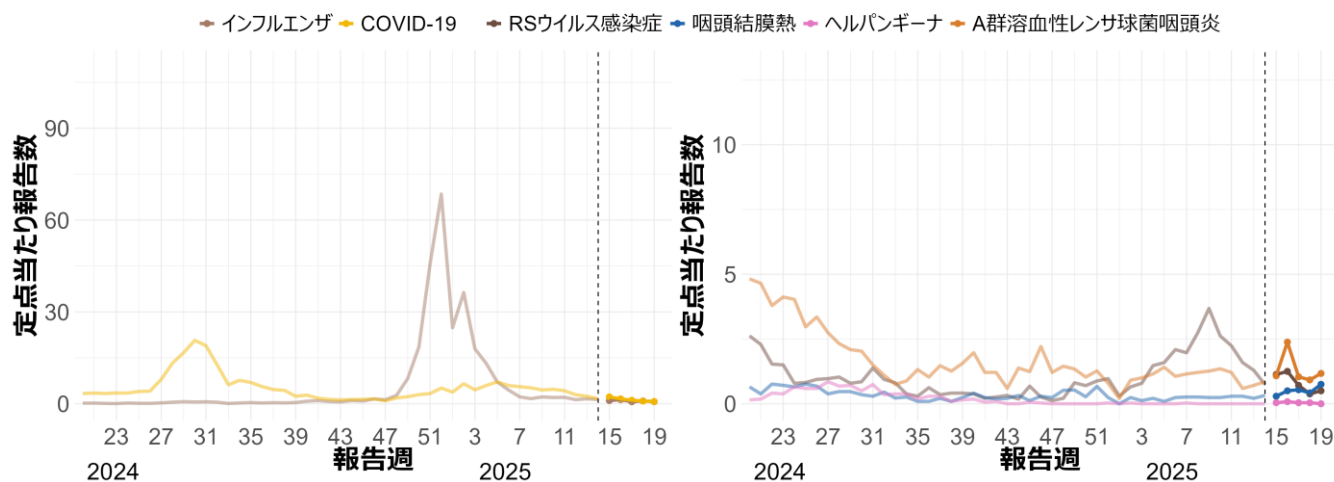
大阪府



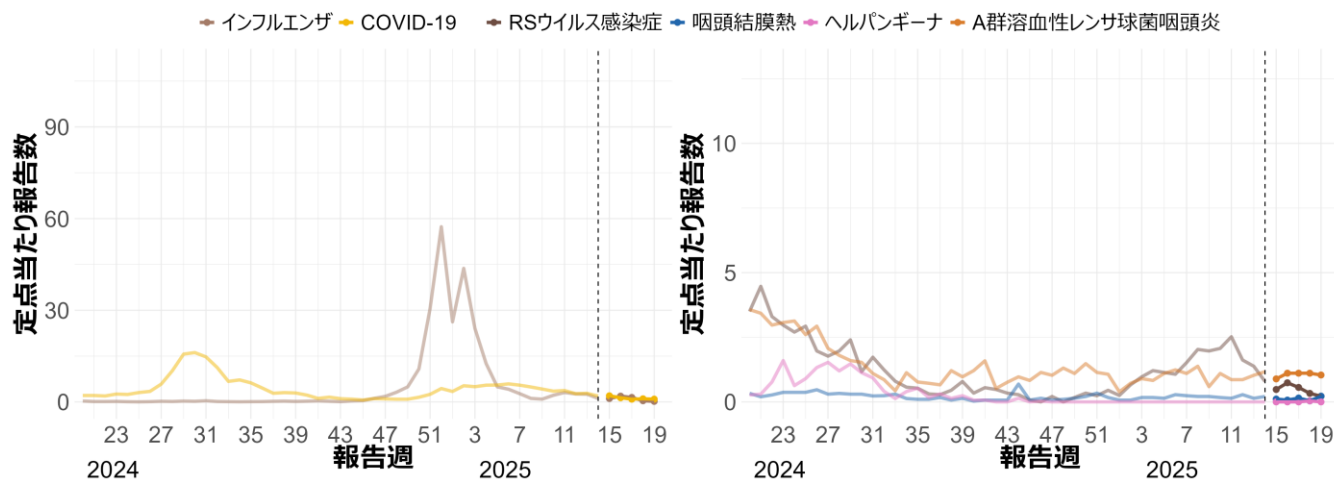
兵庫県



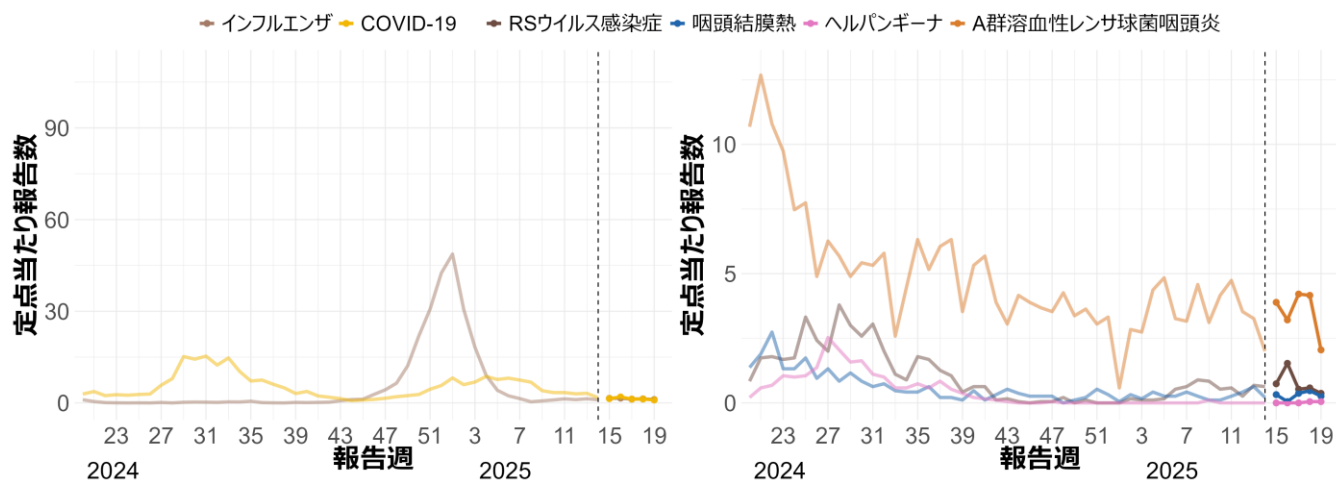
奈良県



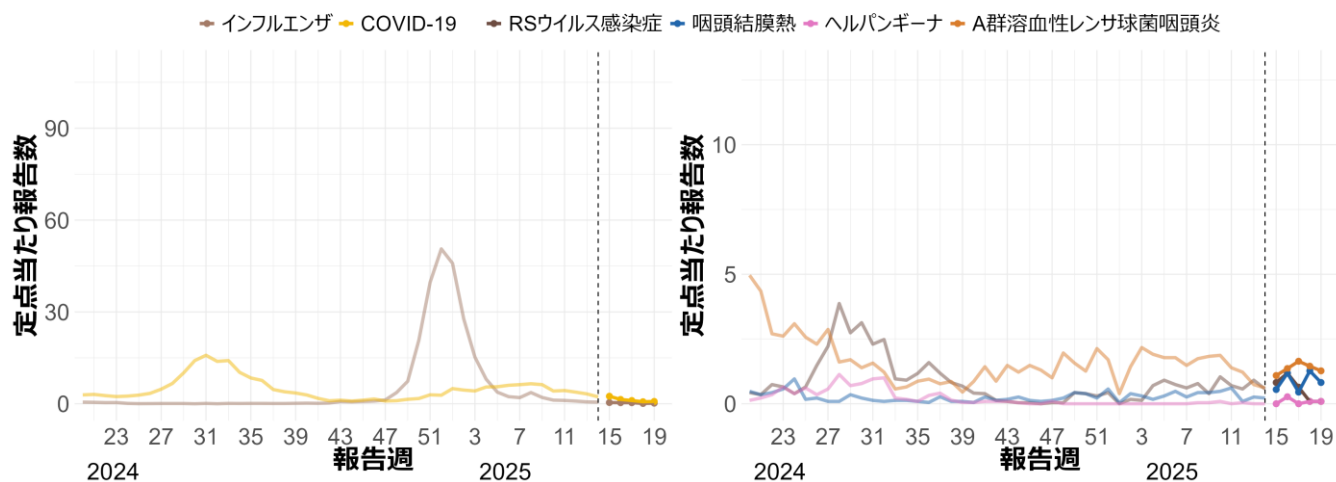
和歌山県



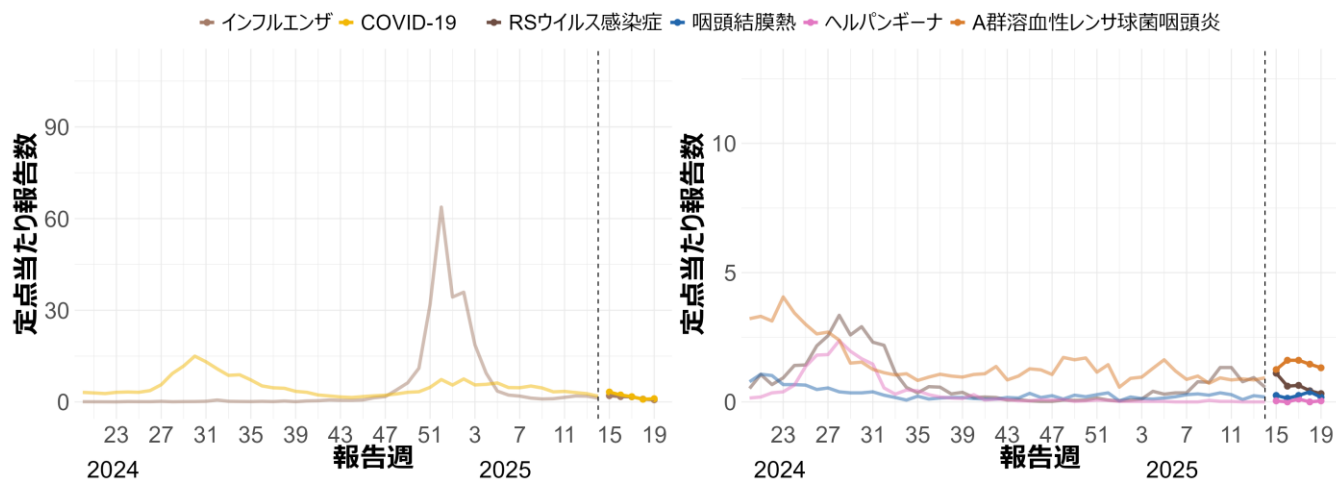
鳥取県



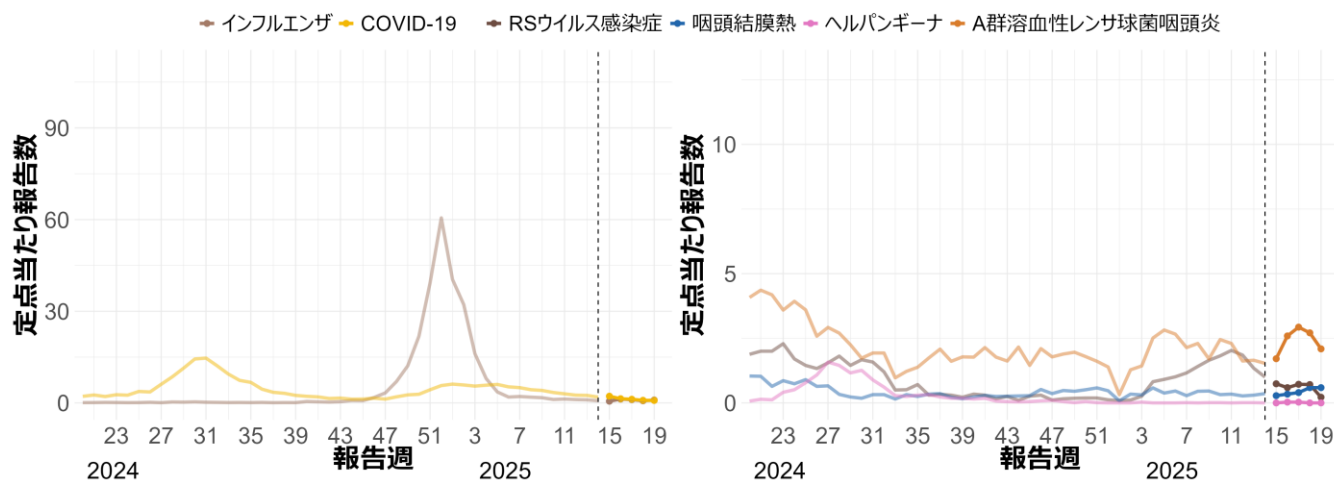
島根県



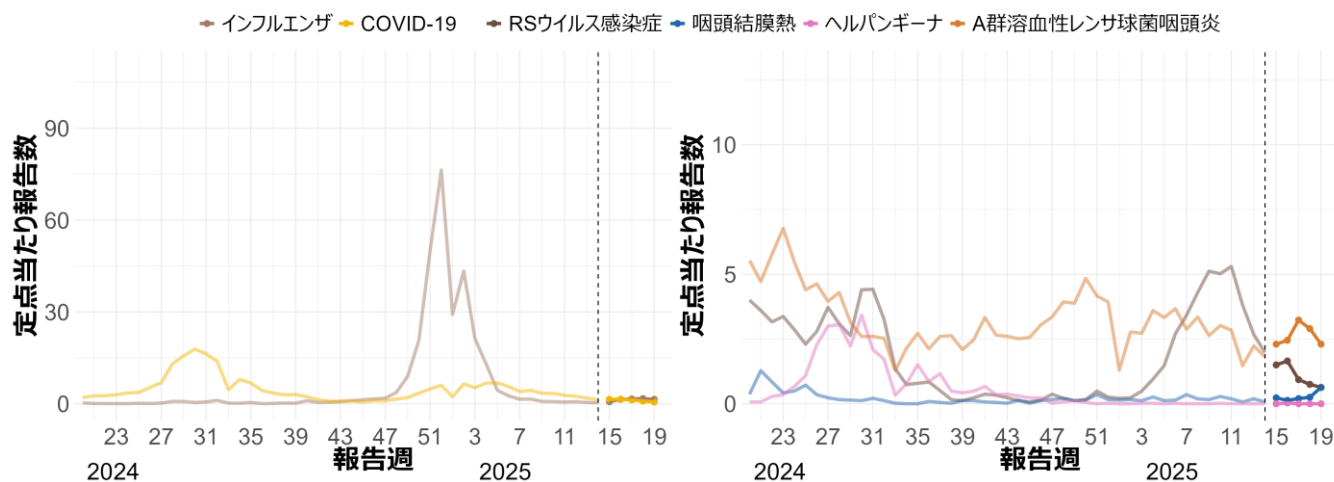
岡山県



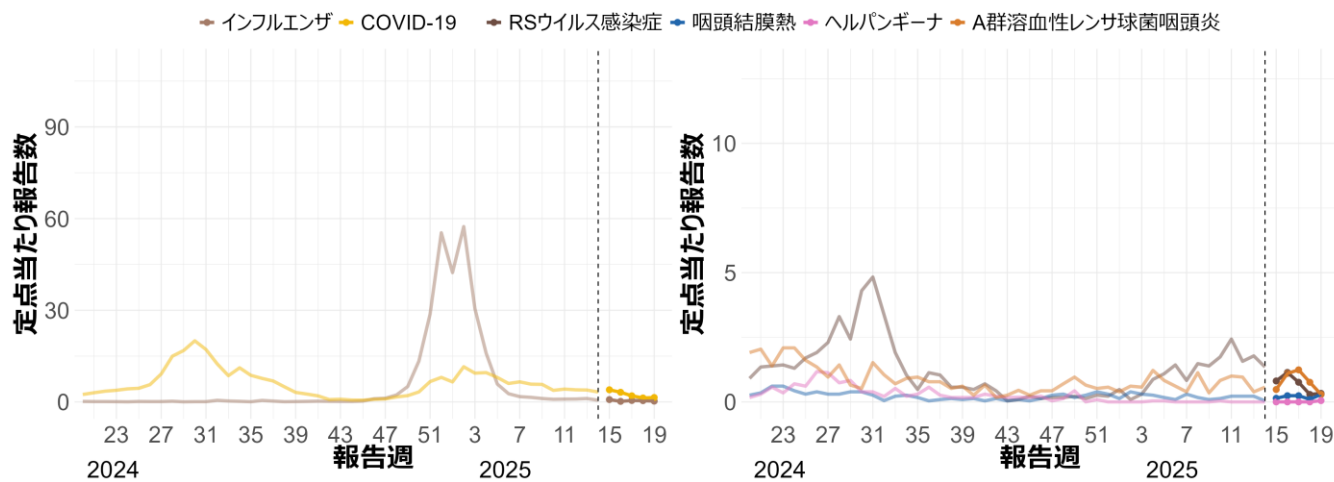
広島県



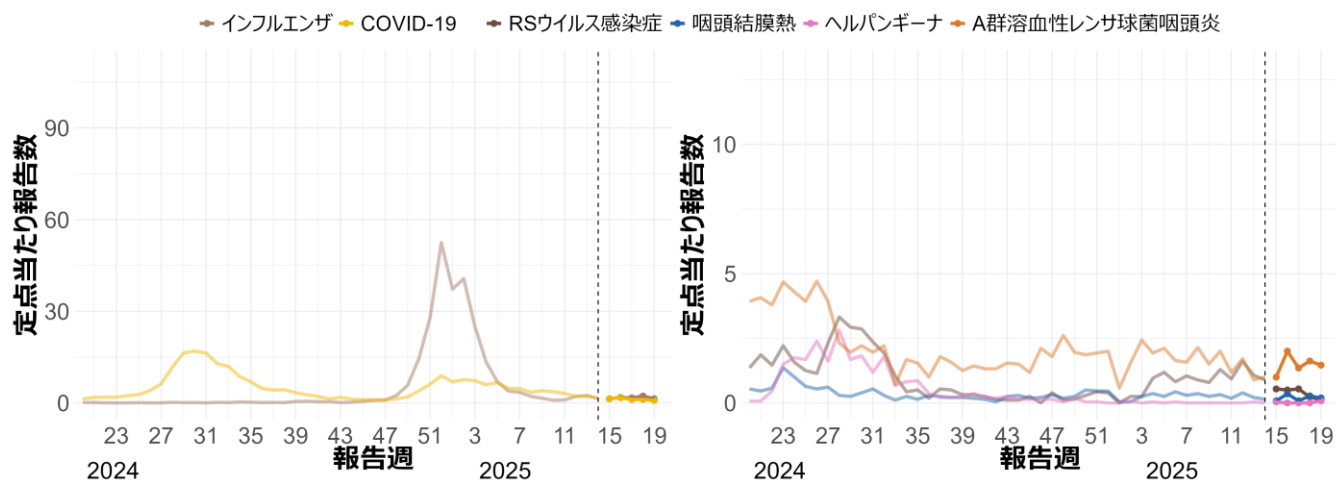
山口県



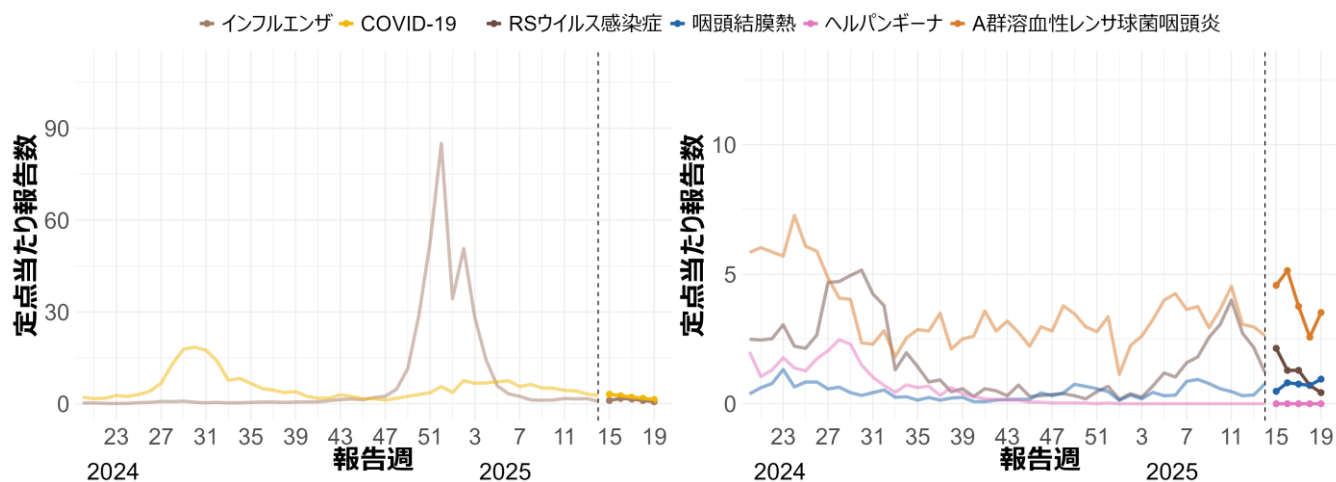
徳島県



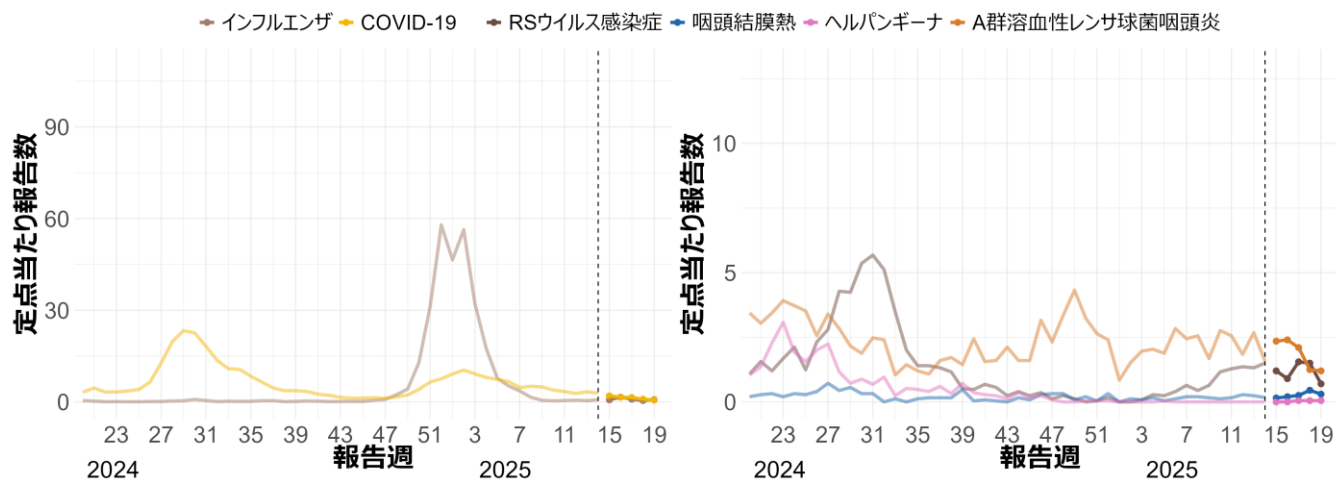
香川県



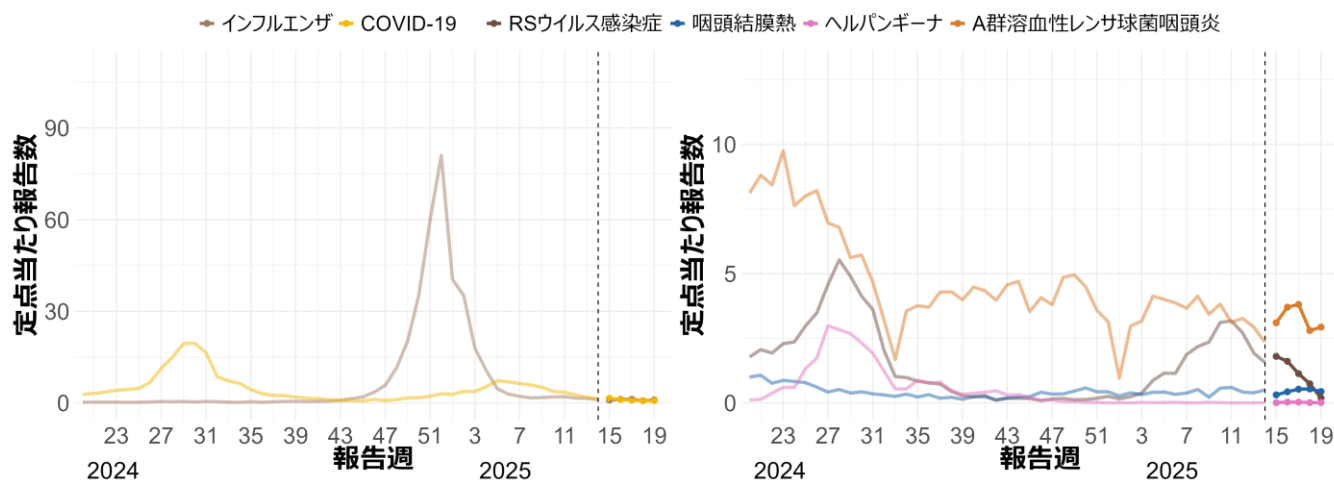
愛媛県



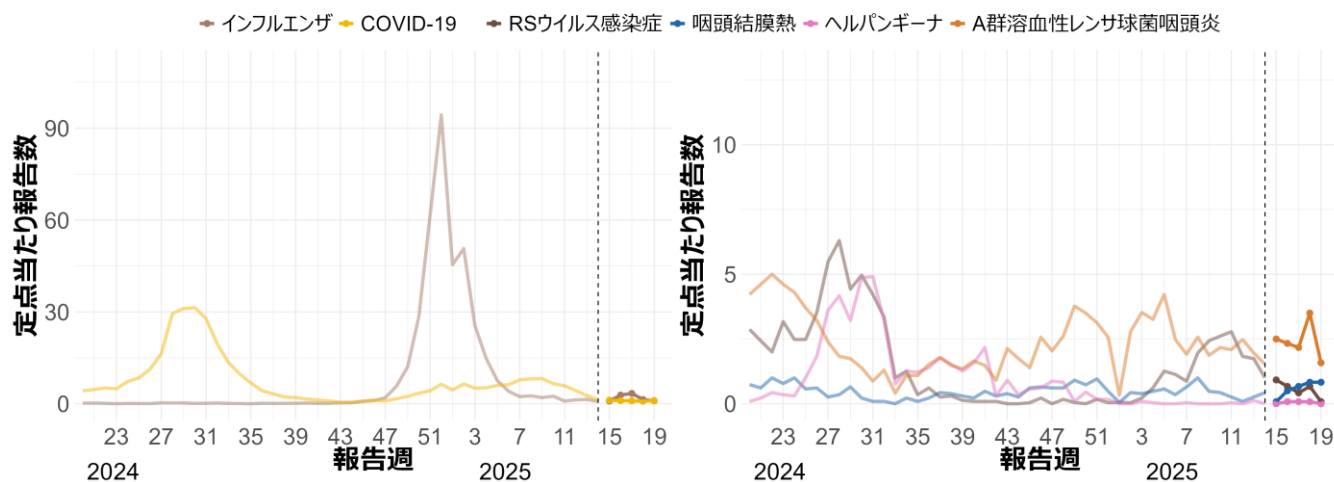
高知県



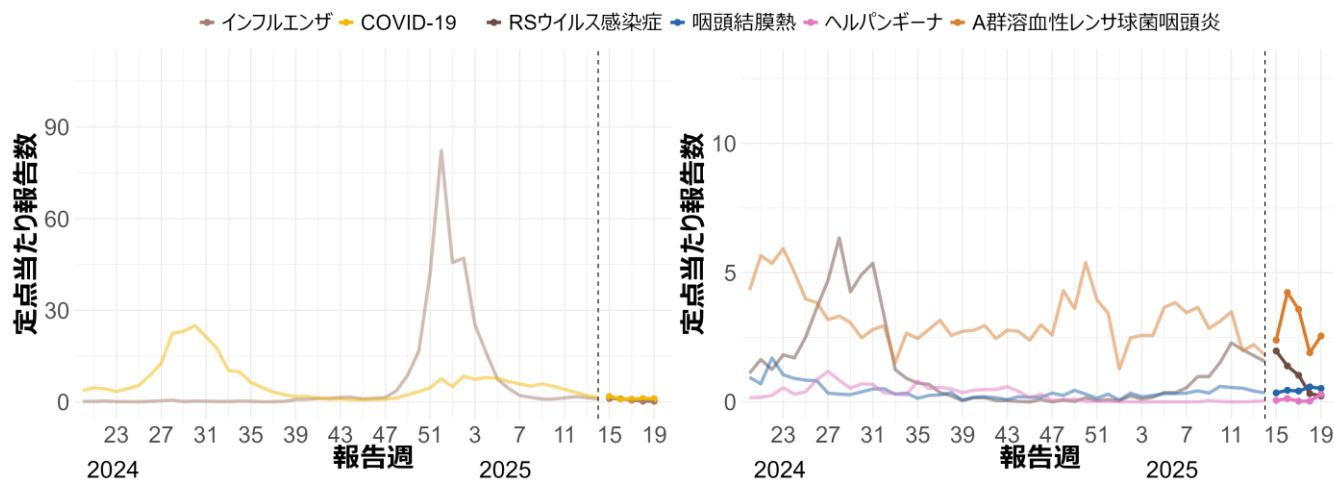
福岡県



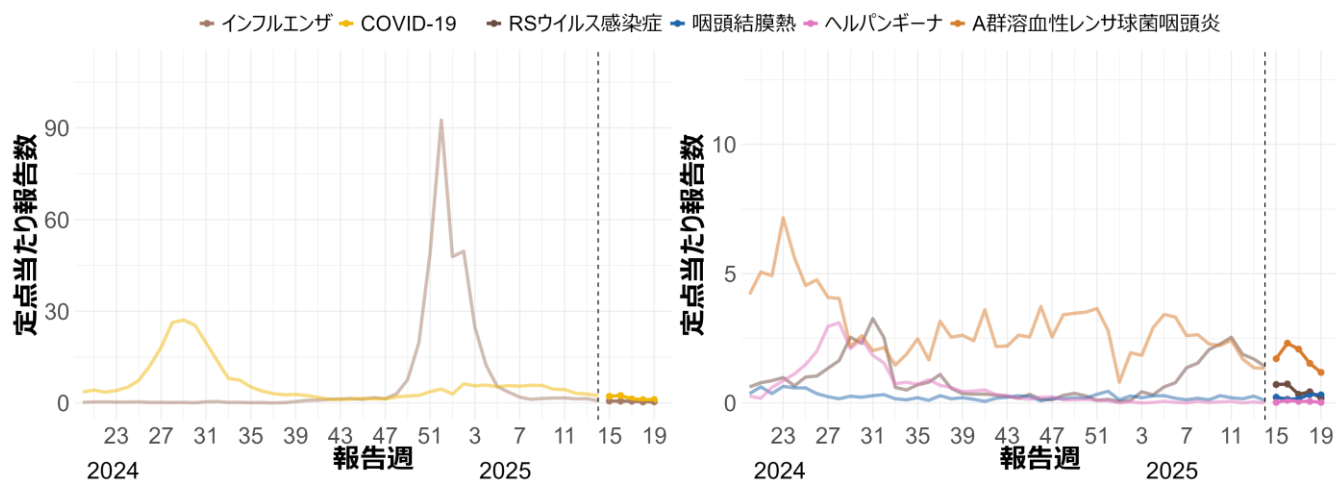
佐賀県



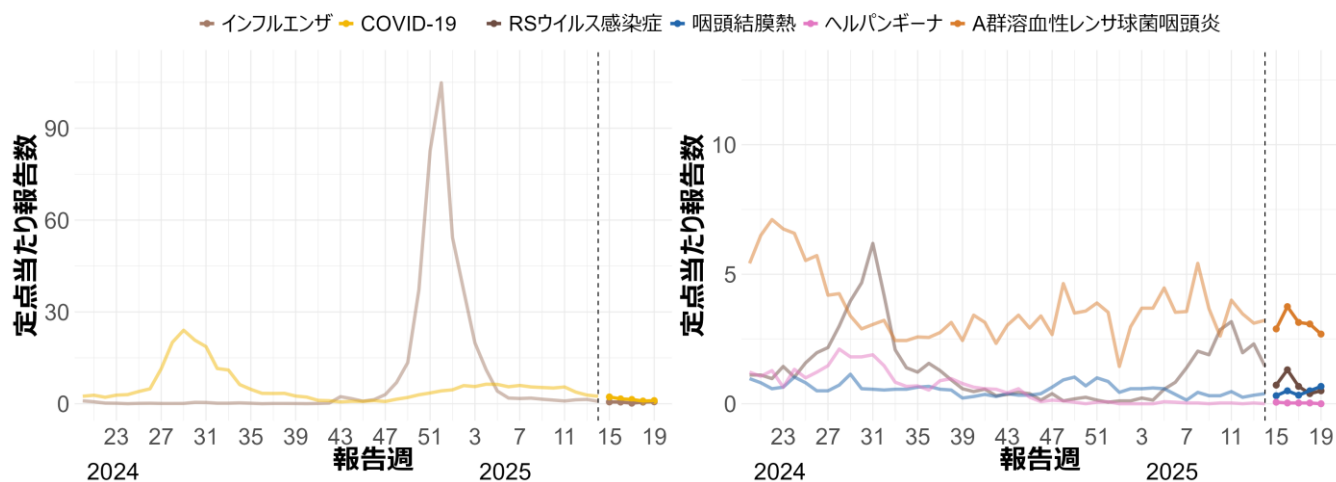
長崎県



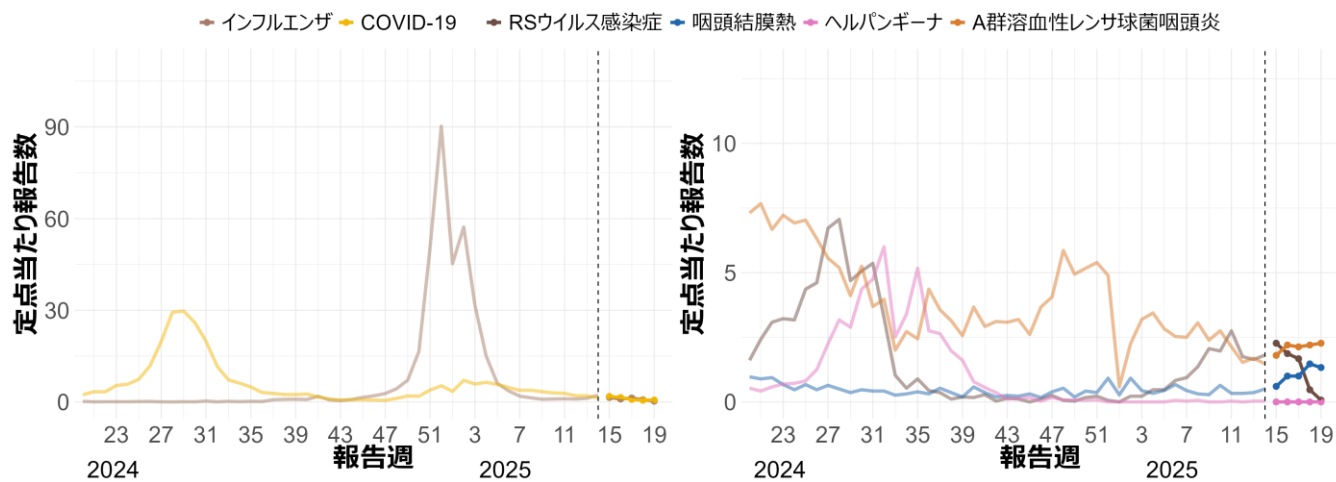
熊本県



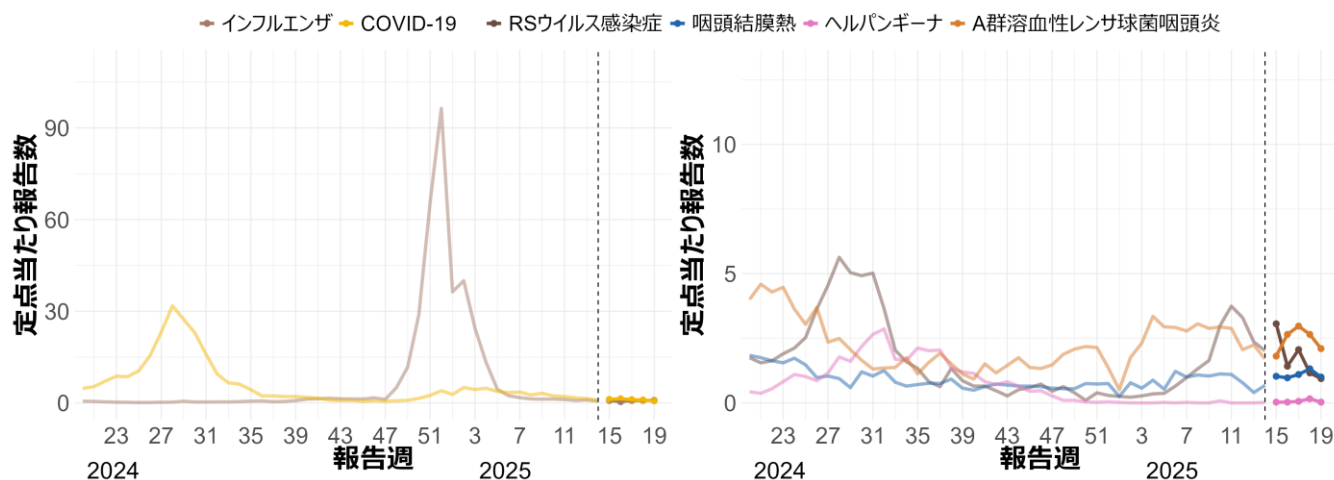
大分県



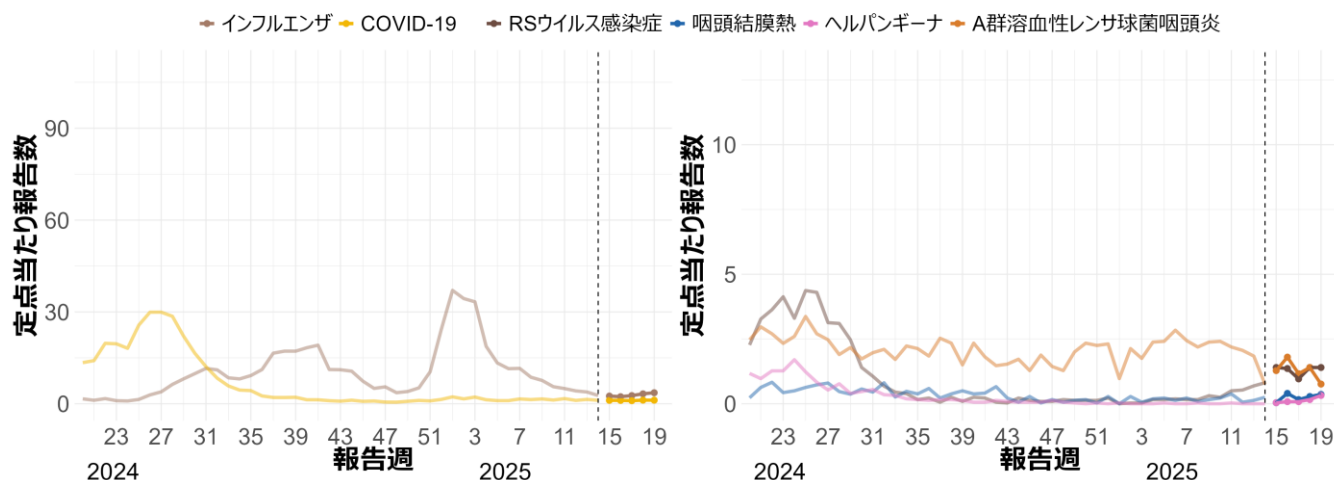
宮崎県



鹿児島県



沖縄県



出典: 感染症発生動向調査(2025年5月14日時点, データ範囲: 2024年5月13日~2025年5月11日)

注) 報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

注) 定点数の変更をうけて、2025年第14週および第15週の間に点線を入れ、濃淡で区別している。

注) 2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約5,000医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約3,000医療機関)に変更、小児科定点は約3,000医療機関から約2,000医療機関に変更された。